

知事広聴「平太さんと語ろう」 記録

【開催日時】平成23年9月16日（金）

13時30分～16時00分

【会場】清水マリビル 7階 展示室

1 出席者

- ・ 発言者 静岡市清水区において様々な分野で活躍されている方

6名（男性4名、女性2名）

- ・ 傍聴者 79名

2 発言意見

	項 目	頁数
発言者 1	サクラエビ等本県の豊富な海の幸のPR	4
2	地域の特産として活かしたサクラエビを学校でも食べてもらえるようにしてほしい	5
3	静岡の安全・安心のPR	8
4	子育て支援団体への支援	9
5	地域のオアシス、憩いの場の提供（噴水広場、ドッグランの設置）、にぎわい機能の強化（テルファーを中心にした環境に配慮した演出）、清水区の点と点を結ぶ（地域内の回遊性の向上、魅力発信）	15
6	シェアをキーワードにしたコミュニティづくり、現地マネージャー制度の継続	19
1	由比・蒲原地区沿岸の流木の早期撤去	28
3	三保の松原における清掃活動	28
6	市民団体を支援する観光プロモーションの実施	31
5	ドリームプラザでの知事広聴の開催	32
4	子ども達に親になりたいと思わせる授業の実施	33
傍聴者 1	浜岡原発の廃止、富士山静岡空港の廃止	35
2	教育旅行ターゲットの拡大、大学生を巻き込んだ商店街の振興	36
3	ドリームプラザ観覧車の地元サービスの実施	37

<知事挨拶>

皆様、こんにちは。

今日は平日で、何かと御多忙のところをお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。また、今日は清水区のリーダーの6人の方々が来ていただきましてありがとうございます。灯台もと暗しといいますが、もうすぐそばなので、こちらで広聴会をするというふうなことは余り考え及ばなかったのでございます。大体、そうですね、石廊崎の方だとか、井川の奥だとか、水窪だとか、そういうなるべく行きにくいところを中心にやってきました。しかし案外「川勝はまだ知らないことが多い」というふうに言われまして、今日も朝一番で8時過ぎに出まして、蒲原の田中光顕伯爵が終の住み処になさった青山荘を見学してきました。皆さん行かれたことありますか。もっとも簡単に行けないと思いますけれども、日本軽金属が管理しておりますので。

ともあれ、もともと田中さんという人は土佐の生まれですね。坂本龍馬とか、中岡慎太郎とかと同じ、土佐勤王党の御出身だったわけですが、富士山を見て感動されて古溪荘をつくったり、そして最後は青山荘で、97歳まで生きられていますから、1843年生まれだということで、明治維新の25年ほど前にお生まれになって、昭和の大半をこちらで過ごされて、宮内大臣までお務めになった方でございますが、それを日本軽金属が本当に大事にされているのを管理人の方からつぶさにお聞きしまして、そこでつい最近、何と明治天皇の像といいますが、銅でつくられた御尊像が発見されたわけです。

これは明治天皇は写真を撮られるのをよしとされなかったもので、明治天皇の御真影というのは残っていますけれども、あれはイタリアの画家キョッソーネという人が書いた絵を写真に撮って写したもので、1枚の写真もないわけです。それで明治45年に亡くなられて、そしてもう何としてでも像をつくりたいということで、それをしかし皇后陛下である昭憲皇太后がお許しにならないわけです。

しかし何としてでもということで、田中伯爵がそれをおつくりになって、そして昭憲皇太后にお見せになって、そしてまた皇太后のお気持ちがお変わりになって、その当時の面影を、実は亡くなられてその型をとるのも許されなかったそうです。ところが、女官であるとか、いろんな周りの人が、これぞ真のというのが、実はその田中伯爵のそこにございまして、それを晩年に遠州のお寺に譲られたんですよ。それがつい最近発見された。これは画期的なことでございます。その置いてあった場所に柵があるんですけども、その下はトンネルが掘ってあって、寝室に通じているとかと、そうしたものをここが持ってお

られます。

そこを見せていただいた後、今度は I A I という、皆さん御存じでしょうか。産業ロボットをつくっているところですけども、この産業ロボットというのは世界一でございませぬけれども、何の略かという、インテリジェントアクチュエータというそうです、I と A は。で、その後ろの I はインコーポレーションという、要するに人工的に知能で動くものということでロボットのことですね。それの日本一なのです。

どんなどころかと思って、社長さんに会ったら、何の話をされるかといったら、野菜の話と果物の話で、子どもたちがこういういいものを食べないとだめだということで、自分たちの持っている制御技術を通して、「章姫」だとか「紅ほっぺ」だとか、こうしたものを混ぜ合わせた、それを交配したものを一生懸命おつくりになろうとしている。

そういう社長でございまして、そこを見せていただきまして、その後 J ステップ、すぐ近くには新丹谷には、その土地改良区のきれいなところを、何としてでもあそこを、眺めもいいし、いい農業地区にしたいものだ、こう思っていました。そのスポーツセンターを見に行ったわけですが、これがまた大変すばらしいアドバイザー、女性の方を得まして、そして色調から設備から、まあ本当に宿舎から、もちろんサッカー場は言うまでもありません。それからリハビリするための水泳するプールもございまして、またいろいろと皆様方が体操する、健康を維持するための科学的な運動をされるところを見てまいりまして、本当に清水というのはすごいなというふうに思って、すっかり腹が減ったところでここに来たところ、有名なふじのくに仕事人、数千人いらっしやる中の選んだ 200 人のお 1 人が「いわしカレー」というのをおつくりになった。

皆さん方はビーフカレーとか、あるいはチキンカレーとか、ポークカレー、エビカレーもございませぬでしょう。エビという海産物があるのに、どうしてイワシじゃだめかというので「いわしカレー」をつくる。そこに折戸ナスを入れる。折戸ナスが入った途端にもう家康ということになる。そこにカツオの削り節を入れる。そして辛カレーという辛い普通のソースじゃなくて、それを入れて、これを「家康カレー」というふうにいまして、以後ごひいきにお願いしたいと思ひますけれども、日本一の仕事人がおつくりになったそのカレー。

そのカレーの下にテーブルマットに置いてあるのがこれでしたよ。もうテーブルマットからちゃんと蒲原の、これは東海道五十三次の名前が全部書いてございまして、その上に蒲原のこれは「夜の雪」という広重の五十三次を書いた中でも最も名画とされているもの

の一つでございます。それを実は下に敷いて、そこで食べさせるという誠にすばらしい。

こういう食に関わること、それからしっかり子どもが生まれて元気に育つということが大事で、そういう子育てに関わること、それから清水が何しろ静岡に併合されたと思っ  
ている人もいらっしゃるの、それは違ふと。清水は清水としての伝統があつて、そのま  
ちのにぎわいをどうつくり上げようかと、こうしたことも大事でございます。

今日はこうしたことに取り組んでいらっしゃる6人のリーダーの方々にお話を承りまし  
て、そしてそれを県政に生かしてまいりたいと。最後の方では今日ここにいらっしゃる方々  
の御意見も、多分中部地域支援局長は時間があればお聞きして、なるべく多くの方々の御  
参加を得て、きょうのこの2時間ほどの会議が実りあるものになりますようにということ  
で、きょうは私もしっかり勉強させていただきたいと思ひます。どうぞ最後までよろしく  
お願い申し上げます。

<発言者1>

皆様、こんにちは。由比漁協青年部から参りました。本日はこのような貴重な意見交換  
の席にお招きいただきましてありがとうございます。そして応援にかけつけてくれた青年  
部の皆さん、ありがとうございます。

先頭バッターということではちょっと緊張していますが、きょう発表させていただくのは、  
私が所属しています漁協青年部の活動や取組について、お話しさせていただきたいと思ひ  
ますので、よろしくお願ひします。

漁協青年部では由比港でサクラエビ漁、シラス漁、定置網漁で働く50歳未満の漁師を集  
めまして組織された由比漁協青年部ですけど、日ごろからさまざまな活動を行っている青  
年部で、その中でも主な活動としまして、生きたままのサクラエビを使った「活きサクラ  
エビ」、「活」という字を使いまして、「活きサクラエビ」の出荷作業という活動を行って  
います。今から5年前になりますが、生きたままのサクラエビを一般の方に提供したいとい  
うテーマをもとにしまして、石巻専修大学の先生の御指導を受けまして、「活きサクラエビ」  
の出荷に向けた研究がスタートしました。

研究に参加してまず思つたことは、生きたサクラエビを扱うということは非常に難しい  
ことだと思ひました。網の中から元気よく泳ぐ生きたサクラエビを選びまして、丁寧にタ  
モですくい上げて港に方に向かうのですが、港へ着くころには身が弱ってしまつたり、水  
槽内に入れたエビが一晩にして、そのほとんどが動かなくなるなど、出荷に向けた研究課

題は多くありました。

問題が起こると部員の皆さんが水槽の周りに集まりまして、エビを詰め込み過ぎたのが悪いのではないかと、酸素が足りなかったとか、いろいろな意見を出し合いまして、石巻専修大学の先生の御指導を受けながら、問題解決に向けて部員の皆さん一丸となって研究に取り組みました。

その後、保管用のかごの改良や水槽の水温、酸素濃度の設定、そして水質改善等を繰り返しまして、2年前にはナノバブル発生装置と天然の木材のチップを利用したろ過装置のついた水槽も完成しまして、ナノバブルによってサクラエビの活性を高めまして、表面に着いた雑菌や汚れを取り除くことで、大変鮮度のよい「生きサクラエビ」が本格的に出荷できるようになりました。

今日隣に座っていらっしゃる発言者2さんに、早くから「生きサクラエビ」を店に置いていただきまして、この青年部でやっている「生きサクラエビ」の活動の広告塔として大変PRの方もしていただきまして、大変ありがたいことだと思っています。

そして最近新たな試みとしまして、サクラエビ漁やシラス漁の際に水揚げされます市場価格の低い小魚を利用しました練り製品づくりというものも始めました。海の資源を大切に最大限に生かし利用することで海を守り、また漁師の生活を安定させるという意味でも、この取組は大変すばらしいものだと思います。今後も青年部の活動に参加しながら、新たな可能性を青年部の皆さんと一緒に考えまして、県内外に向けて発信していきたいと考えておりますので、最後に川勝知事へ静岡県特産のサクラエビ、そして駿河湾で水揚げされる豊富な海の幸のPRの方をお願いしまして、私の発表を終わらせていただきます。ありがとうございました。

<発言者2>

こんにちは。知事からはとても過ぎた紹介をしていただきまして恐縮しております。本業は寿司店ですけれども、実は3年半ほど前からサクラエビやきそば普及会というものを立ち上げて、サクラエビやきそばの普及もしております。そしてもう一つ、今紹介のありました「いわしカレー」も途中で始めまして、県の経営革新を使い、昨年5月から商品化しまして、これの販売を始めました。

こういうことを始めましたものですから、地元の小学校から「いわしカレー」を学校と一緒につくってほしいという声があり、昨年の7月につくりましたところ、大変子どもた

ちが喜びまして、それを見た校長先生が修学旅行先でぜひこのイワシの削り節を配りたいということになりました。

そこで自治会長さん、今日来ていただいておりますけれども、自治会長さんや商工会の皆さんや、そしてイワシ削り節の組合さんなどの協力を得て、去年は浅草と、それから上野で 1,600 袋を子どもたちが配ってまいりました。それを見た地元の人たちがサクラエビは大変高いのですが、来年はぜひサクラエビを修学旅行でということで、昨年からずっと準備をいたしまして、今年もこのように皆さんの協力を得て、サクラエビと、そしてパンフレットを修学旅行に持って行っていただけるように準備を進めております。

この準備に先立ちまして、由比漁協さんからは 6 月に由比と蒲原の小中学校全校に給食でサクラエビをというプレゼントをしていただくことができまして、由比と蒲原の皆さんの力でこのサクラエビを広めたり、地元の特産品を大事にしたりということを進めております。

先ほど由比漁協の発言者の方からお話がありました「生きサクラエビ」ですが、ぜひ子どもたちに食べてほしい、見てほしいということで、小中学校に持っていくのですが、先生から「観察はしたんですけど、これすみません、茹でて食べました」というお話をいただいて、「えっ」と言いました。何か学校では生のものを食べていけないという決まりに、これよくわからないのですが、国の決まりになっているということで、現在子どもたちに生のサクラエビを食べていただくことができません。

ぜひここで知事をお願いしたいのですが、研究をこのように漁協さんもしてくださった生きたサクラエビを子どもたちが学校でも、ぜひ特産として食べていただけるよう、今後御配慮いただけたらと思うんですけれども、その願いをして私の発表にかえさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

<発言者 1、発言者 2 に対する知事コメント>

今年これで 3 回目です。去年はどのぐらいやったか忘れちゃったけれども、今日お 2 人も、それぞれ 5 分きっかりで終わられて、まずはサクラエビを食べていらっしゃるからかなと思うぐらい、非常に礼儀正しい御発表に感じ入りました。ありがとうございました。

漁協青年部が 50 歳未満というのがいいですね、まず。そうでしょう。人生 80 年の時代ですから、50 歳以下なら青年部だというわけで、その気持ちがいいですよ。

発言者 1 さんは一番本当に元気いっばいの少年というような感じもあるぐらいの青年で

ございますが、もう本当に一生懸命由比漁協のために、そして私は特に感銘を受けましたのは、大学の先生に相談し、生きたサクラエビを生きたままどのようにして食卓に届けるようにするか研究する、経験だけでなく、大学の先生に相談した。難しい言葉が出ましたけれども、ナノバブルという水を使った。そういう工夫に工夫を重ねてようやく実現した。私はこういう経験と、研究の成果を両方使う。研究も単に実験室だけでやるのではなく、漁協の方の要求に沿って、それに役立つように一生懸命するという、この二つのマッチングがうまくいった非常にいい例ではないかというふうに思って感心した次第でございます。

こういう努力の結果発言者2さんは、「いわしカレー」で金賞をとられたんですよ。食のセレクションで金賞をとられまして、本当にすばらしいと。もちろん味がいい、もちろん栄養もあると、そして独創的だということですね。エビカレーよりうまいという、こういうことで、自他ともに許すそういう食の名人ですけど、サクラエビのやきそば、これは生きたままではありませんね、完全に死んでしまいます。

一方で生きたまま、生のものを食べる、これは新鮮そのものです。日本においては実は新鮮さということが食の基本になっています。ヨーロッパの（食の基本）はソースですよ、ソースで味付けをする。こちらは素材を大事にする。素材（に大切なこと）は一体何かというと、それが新鮮であるかどうかだと。最も新鮮なものは生きたものでございます、それをいただくことを通して人間が元気になると。

学校の方は日本一律ですから、東京だとか都会だと食すまでにどうしても時間がかかって、場合によっては腐っているかもしれない、あるいは傷んでいるかもしれないということから、安全・安心ということからそういうことしているのでしょう。だけど、これは地元で育った子ならそれで大丈夫だというふうに一步踏み込めるかどうか、ちょっと教育委員会とも話をさせていただこうというふうに思っております。

ちなみにお2人の共通した話題はサクラエビでした。皆様方、本県で採れるいわゆる海産物の種類は幾つか御存じですか。52あります。農産物が167なのです、これ日本一です。そしてこれに52足しますと219になりますけど、実は217と言われていたのですよ。本県で採れる海産物が50だと。それで合計すると、農産物とこれを合わせると217になるので日本一かなと思ったら、鹿児島が218だったのですよ。鹿児島はやっぱ南北に長いので600キロぐらいあるのですよ。ですからいろんなものが採れると。

そしたらそこにサクラエビが入ってなかったのです。それからもう一つはキンメダイ、

これが入ってなかった。キンメダイとサクラエビが向こうで採れないものですから、キンメダイは今房総の方でも採れますけど。サクラエビはここでしょう。農水省の方では統計の中に入れてなかった。

そんなわけでそれを入れると 219 になりまして、52 種類になって、そういうことで本県にとっても最も大切な、いわば本県のシンボルとしての海産物というものでもございますので、イワシという誰でも知っている、そういう大衆的なお魚と、それからサクラエビという本県独自のものと、これに対して御両者がこの一番いい生きた活力を得るには、生きたままそれをいただくと。ポン酢でいただくのですか。「ポン酢もおいしいです」いろいろいただき方があるのです。

私は実は昨年サクラエビの祭りに行きまして、5月に、今年はちょっと行けなかったのですけれども、まあ大変な人で、内外からいらっしゃるということで、これはそれをどう楽しむかということにおきまして、今重要な御提言をいただきました。ありがとうございました。

#### < 発言者 3 >

しずおか体験教育旅行のものです。今 2 人が 5 分でぴったりで終わりましたので、ちょっとプレッシャーを感じながらお話をさせていただきます。

由比漁港の応援団がいっぱいいるということなのですが、私実は体験教育旅行で由比漁協の体験を非常に盛んにやっております、今日も実は朝からシラスの釜上げ体験ということで、朝私も 5 時に起きて由比漁港へ行って、横浜の子どもたちを 70 名ばかり、きょうシラスの組合長もいらっしゃいますが、由比の釜上げ体験をしてまいりました。それで今ここへ着替えて駆け付けたわけですが、そういう逆に僕の応援団かなとちょっと勘違いをしてしまいました、すみません、余分な話をして、5 分過ぎてしまいますが。

我々は、東海大学の博物館にありますが、平成 7 年に、私はそれと各宿泊施設とか、登呂博物館さんとか、今日来ているドリームプラザさんとか、約 33 団体が、子どもたちの教育旅行を静岡に呼ぼうということで、集まってつくった会でございます。今ちょうど 33 団体になっております。16 年目になりまして、よく続いているなど思っております。

その中で、静岡は通過型の観光地と言われていまして、ぜひ泊まって、宿泊をして経済効果をつくりたいということで、我々宿泊観光施設と、体験型観光という形で、それをキーワードにつくりました。それは教育旅行が、実は一般のお客様だと温泉がないとか、伊



豆がいいとか、焼津とか、浜松へどうしても見学して泊まってしまうということだったので、ぜひせっかく見学したなら静岡へ泊まってもらいたいということで、そのためには何がいいだろうかということで、実は体験型ということで、平成7年から一生懸命つくり始めました。

その体験型というのを改めてつくるのではなくて、昔からある、皆さんが日ごろ遊んでいるようなものやっただくことを体験プログラムとして商品化できないかということで、実は我々がお手伝いをして現在に至っているわけです。その中で今言った由比漁協の由比漁港体験という形で、これも4～5年前に組合長のところへお願いに行き、最初断られましたが、しつこく行きまして、やっと1校迎えていただいて、それで今年は何と民泊、由比の漁師さんの家に子どもたちが泊めていただきました。

先日そのアンケートが実は僕のところに来たんですが、非常に親も子どももまた行きたいと、親は特に子どもたちが非常に行儀がよくなったとか、家の手伝いをするようになったということを、優等生のようなアンケートが返ってきたので、本当によかったなと思っています。

そういう中で、実は今年3月11日に東北大震災がありまして、結構予約も入っていたんですが、それを機会に何校か場所を変えました。その理由が、三保によく泊まっていますが、三保は海に近いと、海に突き出していると、危ないということで、実は何校かキャンセルをして、長野へ行ったり、箱根へ泊まったり、何校かしました。それでも体験がいいということで来ていただいているところは多いのですが、そういう形で安心・安全というのが改めて問われてまいりました。

私どもはそこで津波対策の案で避難ビルマップをつくったり、そういうふうに行っておりますので、今後行政は、なかなかすぐに対応できないというのは十分わかっているのですが、今後ぜひ静岡の安心・安全という形で、ぜひPRを今後していただいて、日本平のお茶の体験はもうほとんどキャンセルになってしまいましたので、同じ仲間として非常に辛い思いをしておりますので、ぜひその辺をよろしく願いいたします。ありがとうございました。

#### < 発言者4 >

バディプロジェクトという子育て支援団体をやっております。

私たちは子育て支援の中でもマタニティ（妊娠期間）期から赤ちゃん期のお母さんへの

支援、母親支援という形で特化して活動をしています。そしてもう一つ、私たちの特徴としては子育て真っ最中のお母さんたちがスタッフとして運営・企画をしている団体だということです。

そこで「ママからママへの子育て支援の輪を広げよう」という形で、今そういうことを目標にしながら活動しているわけなんですけれども、このバディプロジェクトの立ち上げのきっかけになりましたのは、子育てサークルで何人かのお母さんたちが一緒になり、「今まで子育てしてきて、いつごろが大変だった？」という話になったとき、やっぱり一人目が生まれてすぐが大変だった、辛かったというお母さんがほとんどでした。

最初、赤ちゃんが泣いて泣いて、なぜ泣いているかもわからなくて辛くて一緒に泣いていたとか、それから何をやるにしても、これで大丈夫なのかな、私のやり方はこれでいいのかなって不安になっていた。で今思ってみると、ああそういうことってみんなにあることだし、もし今の自分がそのときの自分に会ったら、「大丈夫だよ」って言ってあげたいよねとか、こういう情報が役に立つのだから教えてあげたいよねって、そんな話になりました。

だから私たちが今大変なお母さんに何かしてあげられるかもしれない、どんなことがしてあげられるかなと考えたときに、やっぱりそばに寄り添ってくれる人が必要だった。それもどこかに行って誰かがいるというのではなくて、地域の中でちょっと声をかけてくれる人、あるいは例えば子どもがスーパーの中で泣いて泣いてというときに、ちょっと今大変だよって声をかけてくれる人、ちょっと手を貸してくれる人、言葉をかけてくれる人、そういう人が地域の中でたくさんいたらいいよねということになり。そんな思いから、そういうことに共感してくれる仲間をたくさん増やそう、地域の中で増やそうということで、子育てサポーター養成講座という子育て支援を一緒にやろうよというそういう人材養成の講座を始めました。

講座は6年目に入りました。サークルの人には半年間くらい勉強していただくのですが、その内容は、私たちが振り返って、どういう人にそばにいてほしかった、どういう人に言葉をかけてほしかったというところからなんですけれども、まず自分の経験を押し付けてこない人、みんなそれぞれいろんな経験をしているんですけれども、それぞれ子どもが違う、お母さんが違うと、同じ経験であっても価値観も違うし、受け取り方も違う、自分の経験をちょっと脇に置いて、それで「大変だよね」ってちゃんとそのお母さんの言葉をきちんと聞いてあげられる人、批判をしないで聞いてくれる人、そして間違ったことを言わ

ない人。

幾ら自分が経験したことでも、あるいは聞いたことでも、違うことは、社会の中の常識とされていることでも、乳幼児期のことというのは、本当に体と心と密接につながっていることなので、間違っている常識もたくさんあります。とにかく間違ったことは言わない人。赤ちゃんとそれから産後のお母さんの体と心を普通にといいますか、ある程度一般的なことをきちんと知っている人ということで、やはりいろいろと勉強することが必要だということで、8回から10回程度をワンクール（1つの単位）とした講座を毎年開催しています。

今年で6年目になりますが、ここまでの130名余りの方がこの講座を修了して、静岡市を中心としていろいろな地域で活動をしています。私たちスタッフが主に運営をしているんですけども、私たちスタッフも半分以上が子連れのスタッフです。去年赤ちゃんが生まれたというスタッフも6人くらいいます。

そういうスタッフが手弁当で今活動しているんですけども、どれも講座に一時保育をつけて、先生を呼んで、会場を借りてというふうなことをやっていくには、かなりお金がかかりますので、どうしても共催相手を見つけたりとか、いろんなことに努力をしながら続けていますけれども、基本的にはそれぞれのスタッフがお財布から、自分の家計から交通費なり、いろんなものを出しながら6年間、活動を続けてきました。

私たちの活動が必要だと思うのは、まず当事者の目線でいろいろなお母さんたちに必要なものを考えることができるというそういう企画の面、それからもう一つは子連れでいろいろとこういう活動をしているということをほかのお母さんたちに見せることで、ほかのお母さんたちが今は子連れで大変だけど、あっ、子連れでもこんなことができるのか、こんなに楽しそうにいろいろと活動している子育て中の人たちがいるんだというふうな姿を見せて、そしてほかのお母さんたちもちょっと元気を分けて、一緒にやろうよというふうな気持ちになってくれる方たちを出すというふうなこと。

あるいは子育ての経験、自分の子育ての経験がほかのお母さんたちの役に立つというふうな、自分の子育ての経験は自分だけのものではなくて、社会的にも価値のあるものだという感じてもらって、そんなところが私たちの活動のやっている意味ではないかなと思ってやっています。

ただ、先ほど言いましたように、どこからか支援があるという活動ではありません。県内にはそういった活動をしている団体がたくさんあります。去年、今年と大きな助成金が

出て、いろいろな子育てを支援していただいておりますけれども、ぜひそういった当事者目線のすばらしい団体活動を長く続けていけるように、県の方から応援をしていただけるとありがたいなと思います。ありがとうございました。

<発言者3、発言者4に対する知事コメント>

それぞれ大変傾聴に値する御意見を聞きまして感銘を受けました。

まず発言者3さん、またこれ由比港がこちらの3人に共通するテーマになりまして、今日、由比港の漁協の組合長さんも、どこにお見えになっているのでしょうか。ああ、いらっしゃって、やっぱり誇りを持った顔をされておられて、そうしたところに発言者3さんが乗り込んでいかれて、体験旅行のためだと、それはもうすぐに「はい、わかった」と言われるような顔じゃないですよ。もう信念持ってやられているのですから。

しかし一旦胸襟を開かれれば、あとはスムーズにいくということで、それがこのたび体験した子どもたちはもとより、親御さんも感謝されるということになりまして、これは本当にすばらしい話だと思います。そして発言者3さんのところは、都市と農山漁村の交流ですか、この賞もおとりになって、つまり国家的にすばらしい試みをされているということでございます。よかったですと思います。

それは同時に、家に帰って行儀がよくなった、また家のちょっとしたことを手伝うようになったというのは、1泊2日の体験がいかに大きかったかということで、学校の教育よりも効果があったということじゃないでしょうか。だから民泊をされたその由比の方たちが、大事なお子さんを預かっていると。しかし言うべきことはちゃんと言うし、何といたしますか、先生だったわけですね。だからそこがまたいいと思います。

学校の先生だけが先生ではなくて、漁師の方も、それから民泊でお泊めになられた方も、皆そこでその日一日先生役をしたわけですね。それが、実際効果があったということで、子どもはやっぱり大人全員で育てることが大事だと。しかも、俺は別に子どもを育てるために漁をやっているんじゃないと。しかし結果的にそれが子どもの自然体験とか、あるいはよそ様の家で何をすべきか、緊張感の中で大事にされて、感動してまた来たいということになったわけですから、これはほかの大人たちにも意味のあることではなかったかと思えます。ぜひこの試みが静岡県下で広まるのを望むものでございます。

それから三保のことを言われましたね。ともかく東日本大震災は大津波でやられたので、皆さん海に対して非常に警戒心が強いのですが、私どもも今津波に対しては、いわゆる過

去の経験、宝永の津波とか、安政の津波がございました。地震の後に来た津波がございまして、それに基づいた対策は90%終わっています。

すなわち本県は505キロほどの海岸線があるんですけども、そのうち人が住んでいるところは280キロぐらいです。そのうち250キロのところは、あの宝永の地震の後に来た津波とか、安政の大地震の後に来た津波には、ああいうものだと耐えられます。

しかし海岸線が長いので、相当いろいろなことをしなくちゃいけませんけど、そこを発言者3さんは高い建物などを通じて、ここに逃げればよろしいと、そういうマップをおつくりになった。私テレビ見ましたよ。たしか出たでしょう。そういうふうには有名人なのです。やっぱり大事なので、テレビ局も取材に行くということじゃないかと思います。ですからそれは地元の人にとっても、そこで生活している人にとっては、もう本当に一番気になることですから、それを全体で連携して地域の絆をつくられているという面でも大きいと思います。

お茶の件におきましては、本当に御心配をおかけしましたけれども、もう完全におさまりました。6月段階で少し値の高いところがございましたけれども、もう二番茶から今の段階になりまして、もうほとんどないに等しい状況でございます。恐らく来年4月には皆無というふうなものに近いことになると見込まれます。

さらについこの間鹿児島でお茶の品評会があったわけですが、本県のお茶、川根とか掛川ですが、これが農林水産大臣賞を三つとりましたからね。ですから、もう大丈夫なんですけど、まだ若干風評がございしますので、我々が本県のお茶に対して、お茶農家を励ますためにも、またそういう風評被害に対して大丈夫だということを言うためにもどうしたらいいかという。いただくことです。お茶を飲むということですね。一日6杯以上飲めば癌にならないとか、動脈硬化にならないとか、腹が出ないとか、本当かなと思いますけれども、食べ物がうまいので、そのバランスが難しいわけですが、とにかく健康にいいということなので、そういう方向でやっていきたいと。

それからきょうは発言者4さんがママからママへということで、実は今静岡県全体の人口が去年の4月で377万6000人だったんですよ。「3776」で覚えやすいでしょう。富士山の高さですが、377万6000人だったんですよ。ミリメートルに直すと337万6000ミリメートルなので、富士山の高さは。それはどうでもいいのですが、それがだんだん減り、377万を切りまして、今は376万5000人なので。ものすごい勢いで減っているのです。このままいくとどうなるかと思っていまして、それで何としてでもこれは富士山

の高さまで戻さないといけないというふうに、これはもう日々思っております。

そうした中で発言者4さんが、ママさんを経験した人が、これからママさんになる方のためにいろいろな支援をするというすばらしいことで、しかも平成18年から6年間で130人もの人たちにそういう講座をお伝えになって、しかもこれは手弁当でやっている。県は何しているのだと、こういうわけですね。県はものすごい金を使っているはずですよ。もう今日帰って言いますよ、子育て支援をやっている職員に。ともかくこれは結果を出さないといけない。

ただ地域によってそういうのができているところもあるんですね。女性が一生の間に何人子どもを産むかというのを合計特殊出生率というんですが、大体20歳前後から50歳前後までに何人子どもを産むか。平均2.07人、日本全体で2人ほど産んでいけば人口は減らないのですよ。ところが今、日本は1.39人なのです。しかし静岡県は今1.48です、静岡県全体では。

しかし地域差があるのですね。これは必ずしも、お金持ちが住んでいるところと、あるいは比較的厳しいところというのとは違うのですね。何が理由かはよく今調べてくださいと言っているのですが、その中で静岡市は県の水準1.48よりもはるかに低い。それから日本全体の平均よりも低いのですよ。県下35市町の中で、下から数えて3番目ぐらいです。1.3 幾らですよ。1.30 ぐらいです。これは、私は危機的だと思う。前市長に、あんたちゃんとやっているのかというふうなことを言ったぐらいですよ。

ですから、やっぱり不安なく子どもを産んで育てるにはこういう支援があるとよい。御自身は2歳のお子さんを含めて、12歳まで4人の子どものお母さんだと。先ほど子どもを持って、なおかつスタッフとして自分の経験をしゃべる。しかも相手に押し付けないということになさっておられる、こういう活動こそ支援しなくちゃいけない。今日はもういい人に会ったと思って、ここを全面的に支援するようにと伝えるつもりでございます。健康福祉部は知らなかったのではないかと思います。

そのあたりは県の組織が縦割りになって、中部地域支援局と、こういう健康とか福祉にかかわる部分は健康福祉部、厚生労働大臣の厚生ですね、厚生にかかわるところと縦割りで、うまく意思疎通ができてないのでないかということすら今思ったぐらいで、ともかく最後の方でそういう本来きちっとやっているところに支援の手が行くようにというふうに言われましたので、お子様を安心して産める、自分だけで悩まないで済むような組織がありますと伝えていきたい。昔ですと大体3世代住んでいましたから、おばあちゃんが、ご

主人のお母さんであったり、自分のお母さんであったり、そうしますとその経験が伝わりますし子どもが育てられる。

だから先ほど漁協の皆様方が子どもたちの1日2日間の先生をされているように、やはりお母さんはもうお母さん経験者、かつて子育てを経験した人が、やはり単に保育園で何するということではなくて、それはすごく大事だと。そうすると、私はもとに戻ると思う。なぜかという、若い青年たちに「何人子ども欲しい？」と、高校生なり大学生に「1人から5人で手を挙げてください」と、こういうふうに聞きますと、1人と言う人はほとんどいません。2人と言うと半分ぐらい手を挙げるのです。3人と言っても半分ぐらい手を挙げます。4人になると、もう数人になってしまいます。5人はほとんどいない。もっと欲しいと言う人もときどき変わった人がいますけれども、とにかく大体2～3人なのです。

「どうして3人なの？」と聞くと、私は姉妹2人だから弟なりお兄さんが欲しかったとか、その逆だとか、そういうことがあって、2～3人というところが多い、これが社会的責任のある子どもたちといえますか、青年たちが思っている家庭の理想像なので、それはやっぱり実現させてあげないといけないと。そういうふうになりますと、静岡県は、人口は減りません、むしろ微増します。それは活力を生みますよ。

だからその活力のもと、やはり人が元気に育つということで、今日はその子どもたち、小学生、そしてその小学生になるまでのお母さんになることから、その子育ての一番最初のところを支援するお2人のお話を承って、これは広めていくべき、そういうお話ではなかったかと。まず静岡市、特に清水に広く広めて、静岡市、今の不名誉な合計特殊出生率が低いというのを何とかまずは日本の平均まで、さらにまた県の平均まで持っていくということが望まれるということ、ちょっと苦言も含めて申し上げました。

<発言者5>

エスパルスドリームプラザの運営会社でございます株式会社ドリームプラザのものです。よろしく願いいたします。

今日の会場もまさにそのエリアに入りますが、ドリームプラザが建つ清水港日の出地区というのは、清水港発祥の地でございます、その清水港<sup>しみずみなと</sup>という名前は日本書紀にも登場する歴史ある港でございます。まだ活気があふれていて働く港だった時代というのを御記憶されている方も大勢いらっしゃると思いますが、年号で言いますと1978年、昭和53年にこのドリームプラザのエリアも含む日の出地区が特定不況地区に指定を受けまして、

その3年後、「海・人・まちが共存して活気あふれる都市づくり」になるよう再開発地域に位置づけられたことにより、官民共同の再開発プロジェクトがスタートいたしました。

ちなみに県の事業として行ってくださいましたのが、港湾の緑地、イベントを行っております広場ですとか、親水緑地、駐車場などの整備、そして市の事業といたしまして、自転車や歩行者道、同じく駐車場の整備、そして民間の立場といたしまして、我々エスパルスドリームプラザの開業ということで進めてまいりました。

キーワードが「にぎわいを創出しよう」という一言でございました。この言葉をキーワードに1999年、清水港開港、ちょうど100周年の節目に当たる年にエスパルスドリームプラザをオープンさせていただきました。これが清水港の歴史でございます。

開業からもう12年がおかげさまでたちまして、開業以来の累計の来館者数は、おかげさまで5000万人を超えております。昨今では富士山静岡空港の開港、それから中国人個人観光のビザの発給の緩和などもございまして、当館におきましては、特にちびまる子ちゃんランドを目指して、東アジア方面からの外国人のお客様というのが大変増えております。パーセンテージで申し上げますと、年間の来場者数、全体からしますと0.5%程度ですが、その0.5%というのは、数にしますと約2万人のアジアからのお客様をただいまお迎えしております。

さて、地震の話が少し今も出ておりましたけれども、我々も3月11日の震災直後から改めまして感じておりますので、特に私どもの清水港日の出地区というのは、「ハレの日の場であれ」ということをつくづく感じております。そしてその「ハレの日の場」というものを演出しつづけていくことの重要性、そして当館のこれからの役割というものを3月11日以降再確認した次第でございます。

そこで本日はエスパルスドリームプラザ、当館も含む日の出地区における「ハレの日の場」の演出といたしまして、知事にもお力添えいただきたいこと、ちょっと欲張って三つほどお話しさせていただきたいと思うのですが、まず一つ目は地域のオアシス、憩いの場の提供ということでございます。

日の出地区は海とか港というのがもちろん売りになっている界限ではありつつ、実は遊泳禁止でございます。ときどき泳いでしまっているお父様を発見することもあるのですが、実はとてもあつという間に深いところがあるということで遊泳禁止の地域でございます。どちらかといいますと、水と戯れるというよりも、見て楽しむベイエリアというふうになっているのですね。最も海が似合う夏というのは、逆に照り返しが大変強くて、とにかく



暑い場所というようなイメージになっているのが、皆さんも多分今うなずかれてしまったのですが、現状ではないかなと思っております。

そこで例えば環境の調和がとれた噴水広場などがあったり、これは見るだけの噴水ではなくて、お子様や御年配の方々も楽しんでいただける水と戯れることができるような、そんな広場がプラスしてあったらいいなというふうに考えております。

または昨今ペット連れのお客様によくお会いいたしまして、お客様と申しますか、地域の皆様だと思いますが、ドッグランという言葉をよく耳にいたします。ちょっと遠くまでお出かけして、旅行がてらワンちゃんを走らせてくるよというようなお過ごし方をされている方も多いと思うのですが、この日の出地区には何とドリプラワンワン友の会というのが自然発生的に誕生していらっしゃるようで、これは清水港の日の出地区をお散歩される方々によるコミュニティだそうです。

3月11日の震災後も、この友の会の皆様が被災地のペットを救おうということで、自主的に募金活動をされていらっしゃいました。当日はすごく冷たい雨が降っていましたが、長い間立ち続けまして、募金活動をやっていらっしゃる、その日の出地区から発祥したそのコミュニティがあるということに、すごく感動したことを覚えております。

すみません、ちょっと話が戻りますが、そのドッグランについてなんですけれども、例えば清水港の日の出地区に来れば、綱を放して飼い主もリラックスして楽しめる場所が、すぐこんなそばにあるのだよというのも、一つは清水流のライフスタイルの一つとして楽しみになるのではないかなと考えております。

続きまして二つ目になりますが、もう一つの役割として、外からのお客様を多く呼ぶべく、にぎわい機能の強化ということです。ドリームプラザにおきましては、年間約 350 本ほどのイベントをオープン以来毎年続けてまいりました。最も多い企画というのが、地域のお子様を中心に地元の方々が発表して下さる、歌ってくださったり、踊ってくださったりというような発表の場のイベントでございました。

こういったものももちろん今後の皆様のお力とともに実施していきたいと思っておりますが、こういった単発企画だけでの一時的なにぎわいではなく、恒常的なにぎわいを演出していくというためには、ちょっと難しいのですが、まちへ出かけてみることで、それから歩いてみることで自体がイベントになる仕掛けづくりというのができないかなというふうに考えております。

ちびまる子ちゃんというのは、皆さんも御存じだと思いますが、清水御出身のさくらも

もこさんを活用した取組というのは、静岡市を中心に既にスタートしており、これからもさらなる御検討をくださると伺っておりますが、この例えばちびまる子ちゃんという地域資源とも言えるものは、例えば「まちを歩けばまる子に当たるぞ」というようなまちづくりが仮にできたならば、歩いてみることで自分が楽しくなる、そしてこれは他県には真似のできない大事なコンテンツの一つではないかなと日々感じております。

または清水のマリンパークというところには、皆さんテルファーっておわかりになりますでしょうか。清水港のところに今も建っております清水港テルファー、これは有形文化財になるのですが、これを中心にした例えばイルミネーションなどでエリアを盛り上げるという策もあるのではないかなと考えております。例えばイルミネーションをつくるということは、ポイントといたしまして皆様が出かけてみたくなるイルミネーションスポットがあるということと、そのスポットの中心が清水港の今もなお残るシンボリックなテルファーであるというこの2点でございます。

このテルファー、歴史は1928年だそうです。昭和で言うと3年、昭和3年から歴史を持つ、今となっては景観資源、このテルファーの歴史や由縁というものは、必ず皆様の心やそういったものに届く力を持っていると感じておりまして、そのテルファーを今一度引き立てて、皆様にも知っていただいて、それを見に出かけたくなる、清水に行ってみたくなるというような環境演出ができないかなと考えております。

すみません、長くなりました。最後にもう一つが、まちの点と点を結びたいという思いでございます。皆様もニュースなどで8月中旬ごろに耳にされたかと思えますけれども、市、それから商工会議所様、それから静岡鉄道様の方で新交通システムLRTという名前を耳にされた方も多いかと思いますが、我々も実は大歓迎でございまして、当館もオープン以来、回遊性を目的に清水駅と当館を結ぶ無料のシャトルバスを運行いたしてまいりましたが、これはあくまでも清水駅前、それからドリームプラザの2点を結ぶことしか、またできておりません。

清水区というのは、まだまだ結ぶべきすばらしい場所というのが点在しておりまして、その各素敵な場所というのは、当館の小さなシャトルバスではなくて、どんな方にも優しく、乗り降りが楽な新しい乗り物がないでくれたらばというふうに願っております。

そういった回遊性を高めるものに関しましても、県の皆様のバックアップをぜひお願いしたいということと、既に清水まちなか巡回バスですとか、西伊豆とを結ぶ駿河湾フェリーもございますし、もう間もなく新東名も開通するのですが、そういった県民の皆様だけ

でなく、県外、ひいては国外の皆様をもつないでくれる交通システム、魅力発信、そういったもののPRにもぜひ引き続き御尽力いただきたいと願っております。

大変細かなことを申し上げましたけれども、最後に、当館のオープン当初のキャッチコピーというのが「ここにしかないがここにある」であり、この言葉をキャッチコピーに99年にオープンいたしました。清水港日の出地区というのは、静岡県民の皆様から見ても、きっとそう呼べる場所なのではないかなと、12年たった今でも思っております。そこへのさらなる開発へのお力添えをいただければと思っております。ありがとうございます。

#### < 発言者 6 >

皆さんが前向きな話の中ですが、後ろ向きの話からしなきゃいけないかなと思っているのですが、というのは、私は「衰退する商店街」がどうしても枕言葉につく清水の駅前銀座というところのものです。清水市と静岡市が合併する前は中心商店街と言ったのですが、合併したら、おいおい、周辺商店街になっちゃったなど。それから中心商店街というのは、まちの顔だなと言っていたのですが、どうもまちの顔はドリームプラザらしいぞというようになってきて、おれっちどうしたらいいだろうかというような商店街なのですが、その駅前銀座で40年近く商売をやってきました。

皆さんに御愛顧はいただいていたわけなのですが、通行量を見ていると、私は昭和46年から仕事をしているのですが、昭和50年がピークだったんですね。休日は大体86%減、昭和50年から比べると14%になってしまったと。実数で言うと2万7000人ほど歩いていたのが4,000人ほどになっちゃった。それから平日の方は1万4000人が3,500人になってしまった。大体75%減。そんな中で商売やっている方が奇跡だと言われるような人たちが今商売をやっています。

商店街は何かというと炭坑のカナリアと言われるんですね。昔炭坑に入っていくとき、弱いカナリアを先に持っていくと、ガスなんかが溜まっていると、先に異変を感じるわけですね。私が商店街は炭坑のカナリアではないかなというふうに思うのは、社会の危機をいち早く現して衰退してシャッター街になってしまっているのが商店街だからです。ですから皆さん、商店街はしょうがないねなんて人ごとじゃなくて、我が身の社会がそういう方向に向かっているのだぞというふうに私は思って、危機とか、無縁社会とか、コミュニティの崩壊とか、孤独死とか自殺、引きこもり、家庭内暴力、それから不登校や地方衰退、こういったことがおこるのではないかなと思います。

ほとんどが、今の若い人なんかは商店街で買い物したことはないよと。大体ショッピングセンターで買うよというような話になってきますと、皆さんがコンビニであるとか、大手のスーパーで使われたお金は、1週間とたたずに千葉や、東京へ行ってしまうのですね。お金はこの地域で回らないのです。ところが商店街で買ってもらった場合は、商店街はまた地域で使いますから、お金がそこで回っていたのですね。ですから地域の皆さんが働いて得た所得をどんどん、どんどん中央へ吸い上げるストロー現象になってしまった。でもそういった生活を私たちは受け入れてきたのですね。

そんな中で地域文化の発露の場所である、その地方の都市へ行ったときに何が一番おもしろいかといたら、大型店へ行くことじゃなくて、私は地方の中心街に行くとき非常におもしろいですね。その文化があらわれている。ミニ東京ではないところが見えて、明石の魚の棚商店街なんかでは、魚ばかりうわっと売っているところがあるとか、非常に変わっておもしろい。ところがそういったところがなくて、地域の商店がシャッターだけになってしまうと、「何だ、こんな田舎まち」ということで、人々は誇りを失うのですね。私は誇りというのが一番大事なことじゃないかなというふうに思っています。

実は一つの例なのですが、草薙の住宅地に母親が住んでおり、息子たちはみんな家を持つちゃった。お母さんがどんどん、どんどん弱って行ってしまって、家族が交代で見てなきゃいけなくなった。どうしようもなくなって、静岡の街中へ連れてきた。そしたらその人が言うには、魔法にかかったように一人でお財布を持ってひょこひょこ出かけるようになった。行政がどんな姥捨て山みたいのところへ高齢者の施設をつくっても、お年寄りには元気になるのですね。まちが元気であれば、そういった高齢者の方も元気でいられるのですね。そういったまちの社会的機能というものもあるはずなのです。ところがこの商店街はこのまま行くと、絶対10年もたてば、1軒1軒見ていくと、ほとんど残ってないだろうというのが現状です。

そんな中で何をやってきたかという、鉄火巻日本一に挑戦ということをやってきました。マグロのまちだということで日本一、これは清水市民に誇りを持たせることだという形で私たちはやってきました。それと今「もつカレー総研」ということをやっていますけれども、これも地域資源になるということで、「もつカレー」を何とか全国に知らしめて、清水の文化はこんなおいしいものがあるんだぜというところを今出しています。

それからレンタル自転車、今自転車の話も出ていますが、私たちの駅前銀座では既に11年前に無料で貸し出すという自転車をやっています。それから隣人祭りって皆さんご存知

でしょうか。隣近所の絆をつくり直すということで、みんなが持ち寄ってパーティーを開くというものです。今清水駅の半径 500 メートルの中に7つや8つのマンションができます。そして新しい住民の人たちもいますし、旧住民もいる。その人たちが持ち寄りでパーティーをやろう、こんなことも何回か企画して、絆づくりということをやらせていただきました。

あとはエコマネーも、これは県の事業でやらせていただいたのですが、シェアするとか、自分はこんなことができる、じゃこんなことができるということを持ち寄って、あの人が得意なことは、私は助けてもらおう、そういった相互扶助のエコマネーというのを駅前銀座の中でもやってきました。こんなことはやっていますけれども、商店街は一向に復活してきません。

例えば知事さんは学者ですからわかると思いますけれども、小売額というのは、大手も零細も含めて、ずっと縮まっているんですね。これから人口も減ってきます、労働生産人口も減っていますので、小売額は減っていくんですね。ところが売り場面積は広がっているんですね、多くなっている。これは非常な矛盾やら、環境負荷を与えるのではないのでしょうか。

例えばですよ、30年後とか40年後、2050年ぐらいには知事さん、人口の話をされましたけれども、70万ある静岡市の人口は半減するというふうな答えもあります。それから今日の新聞では東静岡に新たな商業施設が2年後にできるとありました。昨日の新聞には呉服町で再開発やるよというふうな話もありました。多分そういった新しい再開発で新しい床をつくっちゃうということは、古い床が余ってきちゃうんですね。

ですから床は増やす時代じゃないですね。ですから皆さんの言葉の中では増築という言葉があるのですが、今は減築の時代なですね。減らしていく時代なのです。それから既にある床を用途変更していく。例えば商店街は商店街というから物の売り場だと考えていらっしゃる方がほとんどだと思いますが、これを用途変更して、生活の拠点街にしていく。

例えばここで提言で、そろそろまとめなきゃいけないのですが、商店街というのは共同建築でやっていたところがありますね。清水銀座もそうですし、呉服町も共同建築です。昭和30年とか40年。そこをぜひ県営住宅にしてもらいたい。そこで県営住宅にして、1階は店舗でもって、上は住まい、お年寄りが住む。その中でルームシェアというのを名古屋市がやり出したそうなのですが、私たちの中心の商店街の駅の周りでは一人住まいのお年寄りがいっぱいいます。一戸建てなのです。だったら若い人と一緒に住んでもらったら

どうか。そういったマッチングをぜひやってもらいたいな。

今コミュニティというのは大分崩壊している、戦前といいますか、昔は農山村がコミュニティだった。明治以降は国家や軍隊、それから戦後は会社や家庭がそうだったんですが、今それがほとんどだめになっています。それをシェアという言葉キーワードに、行政がコミュニティづくりをリードしてくれたらどうかなというふうに思います。シェアというのは共同利用なのですが、共同利用の中で人とのつながりができて、もう1回コミュニティができる可能性があります。

それから最後に緊急雇用対策で現地マネージャーというのを県の方でやっていただきました。それで私のところにも1人来て預かっているのですが、今日も来ていますが、店主というのは高齢化しちゃって、時代についていけない。なおかつやる余裕もなくなってきた。その中で、専従でしっかりとお金を取って、現地マネージャーとしていろんなイベントを企画していく、考え方をリードしてやっていく、そういった人間を県の方で雇っていただければ、本当に私たちは助かりますし、有効な手段だと思います。ただこれ1年じゃなくて、今1年目でネットワークをつくっていくのが精いっぱいです。2年目にはイベントを企画して、3年ぐらいたつと、ようやくひとり立ちするのではないかと思いますので、ここら辺の継続をぜひお願いしたいと思います。以上です。

<発言者5、発言者6に対する知事コメント>

今、お2人のお話を承って、発言者5さんの歯切れのいいお話に聞きほれて、中身をしっかりとされているなというふうに思って、そして発言者6さん、遠慮しがちに始められたのですが、まあこれまた歯切れのいいこと。やはりこういうにぎわいをつくる人はこういう人なのですね。県庁にもこういう人が欲しいなと思ったぐらい、非常に企画力と、それとパワーと説得力にあふれたお話であったというふうにお聞きした次第でございます。

「ハレの場」とおっしゃった。ハレとケのハレですね。ハレ（晴れ）というのはお祭りのときとか、日常とは違う。ケ（曇）の方は日常ですね。日常とは違う空間がこの日の出地区のドリームプラザだという。そしてもう清水港100周年が20世紀の末で1999年、私もそのお祝いに駆け付けました。そのときは別にこちらと縁があったわけではなかったのですが、大変関心がありましてお祝いに駆け付けたのを覚えておりますが、それから12年がたって、何とドリームプラザがオープンして5000万というのは、本当にびっくりしました。これはもう大したものであると。

そして最近では空港を利用する人が出てきて、中国人、今ちょっと下火になりましたけれども、実際は戻ってきますよ。ビザが緩和されましたので、また来ます。今ちょっと放射能の、あそこは大きな国ですから日本は小さく見えますので、福島第一原発で起こった放射能に全日本が汚染されているというふうに思った節がございますが、しかし温家宝首相がお越しになって福島まで行かれて、大丈夫ということがわかると、経験を大事にするところですから、どうも大丈夫らしいということで今戻りつつあります。そういうふうにまた戻ってくると思います。

そうなりますと、日本人だけではなくて、ここからフェリーで土肥にも行けますし、何しろ富士山というのは日本のシンボルでございますので、そこは見たいと。中国で「ドゥララー昇進記」というドラマがあったのですが、1回だけ海外ロケがありました。その海外ロケでどこを選ぶかということで富士山と茶畑を選んだのですね。ここからずっとフェリーで行って、そして恋人岬あたりでチューをするという、チューをしたかどうか知りませんが、私見てないんですけども、ともかくそういうようなロマンチックな場所としてここは見られているということで出てきますよ。

さて、いろいろと三つ要求があると、実際三つが中で一つが二つぐらい分かれていて、五つぐらいあったのではないかと考えていますけれども、ともかくここで遊泳すると、駿河湾は2,500メートルの深さですから、日本で一番深い湾です。その意味で一部のところしか泳げませんが、三保の松原あたり。そういうことでオアシスという考え方はいいですね。これは泳げないということを示すためにも、しかし水と戯れる場所だと。しかしここからは景色が美しいところだと。富士山を見るのもよし、また駿河湾を見るのもよし、こういう非常に活気のある港を見るのもよしということで、そして今ペットを大事にする人がいらっしゃるので、ドッグランをつくるというのは、これからの新しい時代の要求にもなってくると思います。今ペットを自分の家族として飼っている人がたくさんいらっしゃいます。

もともと日本はクジラを殺して食べていると、それをいろいろ言われていますけれども、クジラのお墓まで建てている国ですよ、戒名までつくって。そういうのがクジラを食べる文化のある山口県とか岡山県でございます。それくらい動物を大事にするという、もともと犬公方と言われた人がいるぐらい生類憐れみをするという、それが今、犬が生活の中に入ってきておりますので、今までとは違う、番犬とは違う形でワンちゃんとかニャンコちゃんを大事にする。これは考えなくちゃならないことじゃないかというふうに思いました。

それからやはり確かにイベントだけじゃなくて、イルミネーションというようなもの、ただイルミネーションは今度三保に中部電力が管内最大の 8,000 キロワットという太陽光の発電所をつくりましますけれども、今 8,000 キロですよ、わずか。8,000 キロですごいと思うでしょう。管内最大で 17 ヘクタールぐらい、それを 8,000 キロというのは、原発は 370 万キロ、370 分の 1 でも 1 万キロ、それよりもさらに少ないのですね。だからいかに効率が悪いかということでもあり同時に、今節電をしなくちゃいけないので、そのあたりの案配が課題かなとは思いました。

それから交通については、いろいろ考えなくちゃいけません。清水全体として見ますと、中部横断自動車道もいずれできますね。新東名も一番近いところまできています。新東名と東名を結ぶその連絡道路ももうできまして、ですからこちら来やすくなっているということがありますので、ただ域内に人々がどのように行きやすくするかということについての工夫は要りますね。このあたり市長ともよく話をして、どういうふうにするのにぎわいをつくれるかということを考えてみたいというふうにした次第でございます。

さて、発言者 6 さんのお話は非常に深刻で、しかしながら鉄火巻から、「もつカレー」から、レンタル自転車の無料化から、隣人祭りから、エコマネーから、およそやれることは全部やっているというふうに思ひまして、とりあえず一番最後に出た現地マネージャーをしっかり育てなくちゃいかんということがございました。

その中で非常に大事なこの今日本全体で大きな店が郊外にできて、そこに皆が車で買いに行くと、地元の商店街が疲弊してシャッター街になっていると。これをどのようににぎわいをそこに取り戻すようにするかということについては、どこかが突破口を開けば、それは全国の人たちにとって本当に人助けになるというふうに思いますが、今そうした中で、下が店舗で上に物を買うような人が住んでいる。下に店舗があつて、その店舗を営んでいる人が上に住んでいけば、これはその人たちの物が売れなければ、その人たちは生活しにくくなりますけれども、しかし店舗を営んでいる人と上に住まわれている方が違えば、上に住んでいる人が仮に、先ほどおっしゃったのは県営住宅で、そして普通の人に住まわれているとなれば、一番身近なその下の店舗で日常の買い物をすればそれで済むと。そこで地域の、いわゆる地域振興券といいますか、地域券みたいなものを発行すれば、そこで金が回るという御提案があつたので、これ可能かどうかちょっとすぐにはお返事できませんけれども、大変いい考えだと思います。

ちなみに金沢というところは芸術家を住まわせている昔からあるまちだということで、



それで成功しているとか、それから直島という人口 3,000 人の小さな小さな島があります。宮沢りえさんが貴乃花と結婚できなくなって、そのときの悲しみを癒すために直島という瀬戸内海の島に行った。それが 3,000 人の島です。そこは漁師の島です。中学までしかありませんので、高校ぐらいになると子どもたちが出て行って、もう漁師として家に戻ってこない。なので、空き家が出てきた。その空き家をどうしたかというと芸術家に貸したのです。

そうすると芸術家に貸すということで、その空き家を、漁師の家を自分たちの好きなふうにして、それを今度はいろんな人が見に来る、ポンポン蒸気で 20 分もかかります。そこに行くのに、岡山の宇野港から 20 分かかるところです。ところが世界の七大魅力的な中に選ばれたりしました。選ばれた前後から突然安藤忠雄という建築家がそこに乗り出していたりね、なかなか機を見るに敏な人だと思いますけれども、とにかくそういうことが、本当に疲弊しているところでも何か考えがうまく地についたものが形になりますと変わるということです。

人口について減っていくというふうに言われたでしょう。先ほど私人口について言いました。しかしですね、実は先ほど私、本県の合計特殊出生率が 1.48 と言いましたが、去年は 1.44 だったのですよ。上がっているのです。これはね、このままいくとこうなるということです。あと 50 年たつと、今日本の人口が 1 億 2000 万ですけれども、1 億を切る。そして 100 年たつと半分になるというふうには人口学者が言っている。だけど、子どもを産むのは数字じゃありません。後ろには人間がいるのです。産みたいと思っている、あるいは育てたいと思っている、子どもを大事にしたいと思っている大人がいて、その人たちが決めるのですから。

丙午という年があります。1966 年だと思いますけれども、そのころはまだ人口が、1 億 2000 万へと伸びているときだったのです。しかし 1966 年だけどんと落ちているのですよ、子どもが生まれるのが。どうしてかという、その背景にはお父さんとお母さんがこの年に女の子が生まれるとちょっとぐあいが悪いということで、その出産を控えられたからですね。

ですからその背景には人間がいるので、私はこういうふうには統計でいくとこうなるというのは、全く信じてないですよ。静岡県では 1.44 から 1.48 になった。だから我々は 2.0 まで戻すのだというつもりでやっております、これは気持ち一つで社会の我々の大人が、また若いカップルがどのようにして幸せな家庭を築けるか、それをどうサポートするかと

ということだと思います。これは行政だけでできないし、全部一緒にやらなくちゃいけない。

僕は今のままでいくと、静岡市が70万とか、こうなっていくとか、どんどん減っていくとかいうふうに言われていますけれども、これはひっくり返すことができるというふうに固く信じております。もう既にその兆しは2005年だったか6年に底を打って、少しずつですけれども戻りつつあります。こちらも1.48、これを1.5、1.6、1.7にやっていくと戻るのです。

そんなわけで、どうして減っていったのか。一番減っているのはどこかというところ東京ですよ。1.0です。全国で一番減っている。それはどういう生活していますか。そこではほぼすべての人がマンションに住んでいます。マンションで一番広くても100平米でしょう。30坪です。大体もともとは30平米から始まっている。30平米というのはどのぐらいでしょう、10坪もありません。そこで2DKでつくったのですよ。

2DKで二つの部屋とお茶の間とキッチン、台所を一つにするDKですね。ダイニングルームとキッチンを一つにする。普通茶の間は畳で座っていましたが、畳で座ると、そこで台所でやっていると落ち着かないのでテーブルにしたわけですね。そうすると腰の高さで座りますので、立ったらそこで炊事ができる。そしてダイニング、要するに茶の間と台所を一つにして、そしてあと二つの部屋をつくった。もうそこには押し入れもトイレも全部入れて、げた箱も入れて30平米です。それが爆発的に売れた。なぜかというところ、住まいがなかったからです。しかも鉄筋コンクリートで、それで人が入ってきたというので2DKを2LDK、3DK、3LDK、今は広くて100平米です。それでも30坪ですから。

そういうところだと3世代一緒に住めないですよ。子どもが産まれたと。「おじいちゃん、おばちゃん、ちょっとしばらく見てくれる？」と言ったって、寝るところがない、落ち着かないということになりますから、私はそういう住まいの仕方が私は子育てをしにくくしてきたというふうに思っていて、そうした住まい方もあっていい、鍵一つで便利ですし。しかしそれだけというふうになってきた住まい方の結果が子どもの少子化というものを生んだと。しかもみんなが東京にあこがれたという時代が今までありましたけれども、我々は我々のこの風土に合った生活の仕方をしようじゃないかということで、そうしたものを今取り返しつつあるので、子どもは減らしてなるものかという、そうした気持ちの一つになれば、ぜひしっかり子が育つように、2～3人子どもを育てるようにサポートをしたいというふうに思っております。ちょっと話がそれて済みませんでしたけれども、ともあれ人口というのは、戻せると。

それからもう一つ大切なのは絆とかコミュニティと言われました。これが今回の東日本大震災でも一番問われたものですね、あるいは一番あるということでそれが評価されたものです。大体私が3月26日でしたか、大槌町に行った。そのコミュニティで、もう2週間もここにいてトイレもままならない、風呂は行けない、寒い、雪が降っている、電気はないと聞いたので、どうぞこちらに温泉がありますから、来てくださいと言いました。そしたら涙流されて、今苦しいときも、元気なときも、私たちは皆一緒なのです。元気になったら寄せていただきますと言われまして、私はその絆というのはすごいなと思いました。

その絆はどうして生まれたかという、いろんなお祭りだとか、そのまちの持っている、あるいは村の持っているイベントを通して生まれているのです。だから絆というのは人間を本当に困ったときに支えるものだ、これを失っちゃだめだと。これを支えないといけないというふうに思っておりまして、今清水の銀座がそういう状態になっているということは、何としてでもこれ支えないと絆が失われて、もしものときにそうしたものがなくて被害が大きくなるというふうに思っておりまして、即座にそれを解消する処方せんを出すことはできませんけれども、発言者6さんがおっしゃった幾つかのものをもう一度学ばせていただきまして、なにか商店街の住まい方ですね、これを思い切って、もともとそこに店があるのだから便利ですよ。どういうふうにしたら県営住宅みたいなものがそこに入り込むことができるのか、そうしたことを考えさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

ちなみに今コップが落ちましたけれども、これは柿田川の水です。いかがですか、味は。これ、ここのものじゃないです。どうしてこれがここに置いてあるのでしょうか。これは柿田川のもので、これ天然記念物になりまして、今90円で売っているのです。申しわけありません。しかし100円を切っております。原価で売っております。あそこは1日100万トンの水が出てきます。日本一、東洋一の湧水です。富士に降った雪が、ずっと中をくぐってぼーんと湧き出している、その水なのです。そしたらその歌が見つかったのですね。「富士の根を幾年くぐる白雪の清き水湧く柿田川」かな、ここにその歌が書いてあるので、さすが静岡県ですね。もうそしてこれ天然記念物になりました、今年。

これが天然記念物になることを通して、ただ柿田川は富士山が世界文化遺産に再来年になりますけれども、柿田川のところは構成資産に入らなかった、三保の松原は入っています。入らなかったのですよ。それで向こうの人が無茶苦茶怒って、富士山の世界文化遺産を邪魔するということまでいかけたのです。そしたら天然記念物になった。歌も出

てきて、そしてこれが今まではただで配られていたのですよ、水を宣伝するために。99 円かかったんです。それが今、ブランドができて、飛ぶように売れていまして、これが一つの絆のつくり方というか、ちょっとしたことが、ただの水ですけれども、あるブランドみたいなものを獲得しますと、ぐっと一気に変わるということの例かもしれません。以上、ちょっと余計なことも申し上げました。

< 発言者 1 >

これは発言といいますか、お願いになるのですが、この前の台風 12 号の際に海に大量の流木が流れ出まして、今由比・蒲原地区の沿岸には多数の漂流物が流れていまして、昨日もシラス漁船が、その流木に衝突しまして船体を傷めてしまうという事故が起きました。流木というのは、やはり人間の手で片付けられない限りは海からなくなならないもので、蒲原の海岸には数多くの流木、かなり大きいものも打ち上がっていまして、毎日漁に出て海から見ると、その流木が早く片付いてくれないかなと毎日思います。

流木に衝突して船の修理をすとなりますと、漁に数日間出られないという事態になってしましまして、漁師にとっては大変これは痛手になります。流木の早期撤去を知事にお願いしたいと思っておりますので、御検討をよろしくお願いします。

< 発言者 3 >

先ほど知事が、世界遺産のお話をされたと思うんですが、その中で三保の松原が、静岡市の中では唯一三保の松原だけがその世界遺産の候補ということで入っていたのですが、実は私、教育旅行のほかに羽衣村という NPO にもかかわっておりまして、実は三保の松原は松枯れという形で、非常に今大きな問題になっていまして、当然県とか市の補助をいただきまして、松枯れ対策とかやっておるんですが、その中で実は松枯れの中に、昔は「松葉かき」というのがありまして、三保の住民はみんな「松葉かき」で煮炊きをしていたんですが、今は燃やしてはだめだとか、いろんな形で非常に松葉が溜まって、松のところに溜まったりして、あと草が生えまして、松自体が傷んでいる。それがまた松枯れにも影響しているのではないかとということで、実は我々 NPO で毎週、水曜日と土曜日に草刈りをやらしていただいています。

その中でやっぱり松は砂地がいいということで、その中にいろんな草が生えて、それで景観も非常によくなっていきます。鎌ヶ崎という、よく歌に詠まれる三保の羽衣の松の

鎌ヶ崎というところがあるのですが、そこは本当にもう荒地のようになっていて、観光客が来てもちよつとがっかりするような感じになっていますので、そこを草を取ってきれいにしようということで今活動していますので、ぜひ今日お越しの皆さんも毎週水曜と土曜日、ボランティアでやっておりますので、ぜひまた宣伝していただいたり、少しでも来ていただければ助かると思います。よろしくお願いします。

<発言者1、発言者3に対する知事コメント>

流木の問題は深刻です。今回台風12号でものすごい流木どころか、土砂によってひどい目に遭われた方もいらっしゃいますけれども、台風9号が昨年9月8日に小山町を襲いまして、神奈川県に流れている逆川を流木がとおり、相模湾に流れたのですが、海流の関係で全部静岡県の海岸に来たのです。うちというか静岡県に。そして漁ができなくなってどうしたかということだったのですが、そのときに今片付け終わったと思います。それをどういうふうにしたのか、ちょっと僕は見に行きましたが、もうそのときには大きなものは上げて、それからまた大きな流木だけでなく、あちらは浅いところでしたので、手でダイバーがつかんで上げないといけないようなものも、ございました。大変な労力がかかったと思います。

この由比の流木につきまして、きょう初めて聞きましたので、職員とすぐに相談します。

それから三保の松原、私は三保の松原が大好きで、よくそれこそワンちゃん連れてずっと歩いているのですが、皆さん実はよく世話をされていると思っておりまして、発言者3さんほか、地元の方が松枯れ、あるいは新しい松を植えるなどやっておられるのを知っております。世界文化遺産というのはコアのところと構成遺産というのがありまして、それを一つ一つ本当にこれが富士山の世界文化遺産と結びついているかどうかということを専門家がチェックしに来るのです。

その中で三保の松原と富士山というのは、これは一体ですと。芸術を生み出してきた。景色がいいということでも知られている。絵に描かれ、文学に詠まれ、あるいは羽衣伝説もあるということで、どうして天女がそこに降り立ったか、ほかのところではなく、なぜここに降り立ったか。それはきれいだからですね。だからきれいだから降りて水浴びをしたということでしょう。

そういうところなので、美しくあることが当然であるところなので、ほかのところよりもきれいなのですが、余計にきれいにしなくちゃいかんというそうした中で、昔の知恵が

今はいろいろな環境の問題でたき火がなかなかできないとか、ダイオキシンが出るとかと言われて、今はその代替案として一生懸命NPOできれいにされているということですね。ですから今それをもっと大きく組織してきれいにするという、その輪を広げるということでしょうかね。

<発言者3>

ボランティアとかで、浜の海岸の清掃は結構企業の方もしていただいているのですが、遊歩道とかですね、逆に松林の中の草取りというのが、ほとんど忘れ去られていまして、そういう形で草取りというのをもう少し広めていただくと、海岸の清掃だけでなく、松林の中です。

<知事コメント>

松林の中に歩道がありますね、歩道というか、歩けるようになっている。あそこにいるんな歌碑が立っております。与謝野晶子や与謝野鉄幹の歌とかがあるでしょう。あそこで歌詠みが、俳句詠みが歩いて、しかし1句詠む間に10取るとか、ともかく何かちょっとあそこ、松林の中に人が入って、そしてそれに気づいて、そしてそこをきれいにするという、そうした何かちょっと工夫が要るかもしれませんね。今学校の子どもたちをあちらこちらで呼ばれているみたいですが、何校ぐらい今やられているのですか。

<発言者3>

横浜で30校、八王子で40校です。

<知事コメント>

合計70、すごいものですね。横浜の子は海がありますけれども、あそこはこちらと違って、もともと横浜というのは御承知のように小さな小さな漁村だったのですね。それを1年かけて、ともかく下田で開港しようとする日本の政府は思ったのですが、下田では江戸から遠過ぎると。江戸を開港しろと上の人が出た。その真ん中の横浜が選ばれて、それでそこにわざわざ港をつくったのです。だから初めからあそこはヨーロッパ風といいますか、欧米風なのです。しかしここは違いますから。横浜の子にとって、本来の日本の美しい白砂青松というのはどういうものかということここに来ればいいと。

それから八王子は、これは内陸ですから、その70校というその子たちにも、発言者3さんのアイデアで、仕事をしながら、仕事をするというか、何か拾ってやるとか、ちょっと考えてくださいますか。どっちがどっちかわかりませんが、それは非常に大事な問題なので、これからこの9月の末に暫定的推薦書がユネスコに送られるのです。実は9月の1日に文化庁でこれを推薦することが決まりました。決まったので、これはまた英語で書かなくちゃいけませんので、それを9月の末までにまとめまして送ります。そうすると、これを向こうが1月の初めまでに見まして、ここを直してくれ、あるいはここどうなっているかというそういうチェックがありまして、正式の推薦書が来年の初めに送られることになります、足りないところを全部補ったものを。そうしますと、それを委員の先生が御覧になって見に来られるのですよ、世界中から。そしてそれが来年ございまして、再来年の前半期に委員会が開かれて、世界文化遺産になるかどうかが決まる。

世界文化遺産になると、何もそこだけに来るのではないですよ。全部来ます。ですからすべてが問題ですし、特に構成資産のところはしっかり載ります。ただし三保の松原だけに行くわけではないでしょう。清水に来るのですよ。ですから全体が問われる。もちろん日本のシンボルとしての富士山ですから、これをみんなできれいにしようということで、どうせきれいにするならみんなでやった方がいいというアイデアを、何かこのすごいアイデアマンの2人がいらっしゃるので、清水から始まる白砂青松の回復運動、これをぜひお願いしたいと言うとちょっとおかしいですが、私もそれを応援するように回りますので、よろしくをお願いします。

<発言者6>

ちょっと今の関連で。駿河という言葉はインドネシア語で Heaven と言うらしいですね。つまり天国ですよ。私ちょっとインドネシア人が来たものですから、「おい、駿河ってインドネシア語でどういう意味？」って言ったら、即座に Heaven と言いました。あっここで Heaven、樂園なんだということなのですが、実は今、貝島御殿がどこか見ていたんですけど、発言者3さんに聞いたら、あそこだよと言っていたんです。

知っている方は割と少ないんですけども、国柱会の田中智学という方が、日蓮の文章の中に「靈山浄土に似たる最勝の地がここの三保だ」と書いてあるのを読み、ここは天国だって日蓮が言ったからと言って、最勝閣という建物をここにつくったんですね。

それから高山樗牛も、しばらく病で療養していたときに鎌倉にいたのですが、鎌倉なん

てつまらないと。ぜひ興津へ、興津へ一度遊びに来たことがあったのですが、ここが Heaven on earth、ここが地上の楽園だといって龍華寺に葬られたわけです。そういったことから見ますと、駿河、Heaven、これこそ清水の偉大なる資源だけれども、みんな忘れていないか。

富士山が今世界遺産になるということを知事が言われたのですが、富士山と本来なら三保がセットで世界遺産になるべきじゃないかなと私は思うんです。というのは、平安時代から来ている人たちは、三保の松原から富士山が1つのセットだったのですね。富士山というのは蓬莱の山、仙人が降り立つ、神様が降り立つ、それから三保半島は海に突き出していて、昔は松だらけだったのですね。ですから海に浮かぶ蓬莱島だったのです。そこが、仙人が住む場所。この2つがセットになったところが駿河、Heaven on earth、地上の天国なのです。

このことをもっともって言って県の観光プロモーションしていただきたいと思いますし、実はそこからなぜか「もつカレー」の話になるのですが、実は「もつカレー」の方も全国的に有名になってきまして、新潟テレビでもって全国からカレーを5つ集めたと。5つの中に俺ら選ばれたのかって半信半疑で聞きました。スタッフの方が「早くから『清水のもつカレー』上がっているのですよ」というようなお話でした。

ところがちゃんと計算してみるとどうも費用が出ない。私たち市民団体なものですから、全然お金がないという形で、これは行けないなというような話をしていましたので、そんな点もうまく市民団体でも行けるような方策の観光のプロモーションをしていただきたいと、このように思いました。ですから、地上の天国、駿河から「清水もつカレー」を食べさせていただくというような形のことを考えてください。

<発言者5>

それでは今日すごく感じたことを一つ、感想になってしまうかもしれませんが1つ付け加えさせてください。知事のすごく力強くて、それからわかりやすいと言ったら大変失礼ですが、わかりやすいお言葉、それからすごく今日皆様が真っ直ぐ前を向いて聞いてくださっているお姿を拝見してまして、何かとにかくうれしい気持ちが今湧き上がっております。もしくは県民としての誇りといいますか、心強いような思いをなぜか今私すごく感じています。

ぜひこういった場を若い世代も含めて、知事と、すごくとても素敵なタイトル「平太さ



ん」なんていうふうに書いてくださって、「平太さんと語ろう」なんていう題目で、若い世代も含めて、こんなような会がまたあったらうれしいななんていうことも考えました。ぜひその会場にドリームプラザにも広場がございますし、計画しろとおっしゃれば、すぐ企画させていただきますが、海を見ながらというような、そんな会があったらうれしいなと感じました。ありがとうございました。

<発言者4>

先ほど知事の方から出生率のお話が出たと思うのですが、今すぐに何かということではなくて、私たち赤ちゃんとお母さんと接しているうちに、これから産む世代、これからお父さん、お母さんになるというふうな小学生とか中学生とか高校生とか、そういう子どもたちが大人になって子どもを産むのが楽しみだ、そういうお話とか、そういう体験がもっともっと増えてくるといいなと思っています。

具体的に私が関わっているもの二つあるのですが、一つが中学生の授業の中で、赤ちゃんや赤ちゃん連れのお母さんに学校に来てもらって、生徒と触れ合うというふうな授業があります。県下で幾つかやっているようですけれども、もっともっとすべての学校でこういったことが実施できるような形になってくるといいなと思います。

そこにスタッフとして関わっていきますと、「あそこの子が」というふうな、見た目はちょっとそっぽを向いているような男の子でも、すごくうれしそうな顔をして、赤ちゃんを抱っこしていたりとか、「赤ちゃんって、温かいんだね」とか、「こうやって私たちも育てられたんだね」というふうな声を聞くと、本当にいい授業だなというふうに思います。

もう一つは、小学校や中学校のやはり授業の中にお邪魔をして、お母さんのお腹の中で命が始まって、そして生まれ出てくるまでの間に自分がどんなふうに育って、どんな自分の能力を使って生まれてきたのだよというふうなことを伝える「誕生学プログラム」というのがあるので、そういう授業をしますと、あっ自分の命ってすごいとか、自分の存在はすごい、自分はとっても喜ばれて生まれてきたんだとか、そういった自己肯定感にもものすごくつながります。

そういった授業をいろいろなところでちょっとずつさせていただいていますけれども、やはり学校の授業の中でそういうことを伝えていくことによって、家庭の中でなかなか認められななかったりとか、授業の場で自分はここにいることの意味は何だろうとか、いろんなことを考えている子どもたちに、それでも何ができる、できないではなくて、自分

がここにいることがすごく素敵なことなのだよということ。そして自分がいつか大人になって親になるかもしれないという自分の未来が楽しみになるというふうな、そういう気持ちを持つ子どもが一人でも増えるということが、将来の出生率が上がるという結果につながるのではないかなと思っています。

<発言者6、発言者5、発言者4に対する知事コメント>

発言者6さん、駿河がHeavenだということを教えていただきまして、大変力強うございました。インドネシア語で天国の意味だと、こういうわけですね。いやあ、いいですね。インドネシアにバリという島がある。そこに高い何かという山があって、その途中にきれいな湖がありまして、そこにやっぱり天女が降りてくるのですよ。ところがそこは漁師じゃなくて、お魚を釣る方じゃなくて狩りの人ですね。それが天女の羽衣をとりまして、それで向こうは何と言うかという、結婚しろと、そしたら返してやると。厚かましいでしょう。

こちらはきれいな舞を舞ってくれたら返してあげる。しかも先に踊れと言ったら、返してくれないと踊れないというので、伯梁が言いますよね、返したら踊らないで勝手に帰ってしまうのではないかと。うそをつかないのが天女の世界だとおっしゃって、もう伯梁は恥じ入って、さっと羽衣を返すと。そうするときれいな舞を舞って、春霞の中に消えていった。実にきれいですよ、ここは。向こうはどぎつい。

そんな意味で、本当の天国に近いのがこっちじゃないかというふうにした次第ですが、本当に発言者6さんのこういう話は学校で子どもたちに聞かせたいと思いましたね。本当に学校の先生みたいな方だと思いました。また発言者5さんも人を持ち上げるのが上手で、やっぱりこういうほめて相手を調子に乗せるというこういう人が大事ですね。教師の見本だというように思いました。

つまりまちおこしなんかやっている人は生活に関わっているし、いかにして地域の経済を上げるかということですから、やっぱり単に学校の指導要綱を見て、そして黒板に書いてそれで終わりというのと違うので、やはり体に入った知識なので、すごく聞かせるというふうに思いますね。ですからこういうふうにしてみんなが学校の先生になっていくと、学校といいますか、先生役をしていくというようにして子どもを育てていくという雰囲気が出たらいいなど。

それを今、発言者4さんが子どもたちのところに行くとおっしゃいましたので、これは

2歳、3歳ぐらい、あるいは本当に生まれたばかりの子どもを学校に連れていくということについては、お母様方の協力が要りますから、ですからこれも学校とその地域との信頼関係と申しますか、あるときになるべく多くのお母様方がそこに行くというこういうことをするには、それなりのお母様方をまとめるためのそういう組織というのがないといけない。それをできるというふうにおっしゃっているので、発言者4さんのこういう子育てのこれまでの6年間のそういう経験が言わせているものだろうと、非常に明るいニュースだと思いました。

これをしかしどこかで実践していくということを通して、みんな小さい子を大事にする。小さい子は弱いですから、わんぱく坊主が本当にいたいけない子どもを見ると、それははじめません。すぐ近くの年齢に近い者はじめたりしますが、本当に弱いと小さな者たちははじめませんから、ですからはじめをなくすということにもつながると存じます。

ですからいろいろな波及効果もあると思いますので、それを特区的な形でこちらが支援をすると、どういう支援をすると一番いいのかということは、やっぱり言っていただいてやっていくのがいいのではないかと。どこかが突破口を開くと、それが広がると。1点突破すれば全面的に展開するという、ブレイクすると言うでしょう。その1点の突破をしていくところがここだと、まさに港ですから、ふさわしい土地柄ではないかというふうに思います。

それから「もつカレー」も言われましたね。何で「いわしカレー」のことを言わなかったのかと思って。そうするとその「もつカレー」と「いわしカレー」が、これがお互い励まし合うとよろしいんじゃないでしょうか。店も1軒でなくて、その向かいに似たような店があると、お互いに競い合うでしょう。だから私は「もつカレー」と「いわしカレー」が、イワシでモツ、モツでイワシということで、何か両方で、このカレーでお互いに両方、毎日毎日同じものを食べるのも飽きますので、そのあたり両方の御関係が、新結合ができればなというような感想を持ちました。

#### <傍聴者1>

私が一番体験したのは子どもに読み聞かせをしたことです。ちょっと小学生には難しかったかなと思うのですが、作者の名前は忘れたんですけど、『人はなぜ死んではいけない』という本を読み聞かせました。わかる子はわかって、私の家を聞いたりもしました。

長くなるので、もう一つお願いしたいんですが、浜岡原発に知事は非常に積極的な発言

をなさっています。18メートルの防潮壁を幾ら建てても、私も会合のときにその土、使われる予定の土を見たんですが、すぐ簡単に潰れてしまうんですね。放射能は当然日本ももちろんなのですが、世界中へ回って行ってしまいます。やっぱりそれを本当に止めてくださるよう発言なさっていますけれども、強力にやっていただきたいと思います。

もう一つ、静岡空港のことなのですが、前知事が本当にごり押しという言い方はいけないと思いますが、地元の人意見をきちんと聞かないで、その人たちのことを聞くと、川がもう本当に生態系が寸断され、植物については、希少種であるラン科の原種が壊滅の危機に瀕していると聞きます。川にはもうドジョウとかフナとかそういうのがもう全滅しているそうです。そういうところへつくったということが一番いけないことだと思うのですが、本当に皆さんの税金を使っているんで、ぜひ廃港の決断をなさってほしいと思います。孫子のためをお願いします。

#### <傍聴者2>

皆さんのいろんな御意見をお聞きして、知った顔の人ばかりなので、何ですけど、それでちょっと水を差すような話にもなるかもしれないのですが、まず一つ今日の根本的なのは、人口減少だとか、経済活性化とか、それが一つ大きなテーマになっていたと思うんですが、発言者3さんの教育旅行、これは本当にいろんなことをされて、私も感服していますが、漁協さんとやられているそうなんですけど、そこはやっぱり教育旅行ということで子どもたちが中心になりますね、どうしても。

そうすると子どもたち、民泊というのもそうなのですが、普通の旅館さんとかホテルとか、そういうところに子どもたちが宿泊してないのかどうなのかはわからないけど、どうしてもそうすると、あるところだけにそういうお金が落ちちゃうんじゃないのかなという懸念がありますね。私も今NPOに関係していますが、そのNPOの中の仲間で、やっぱりホテル関係の人がいますけれども、何とか静岡市内の駅前の方のホテルに観光客を泊めたいという気持ちがあるんですけど、そういうところはやっぱり料金も高いだろうし、学校からすると子どもたちを泊めにくいだろうし、そういう学校教育でというのはわかりませんが、そういうさらにそこを何とか一般というか、そちらの方向に目を向けてもらいたい。

それが一つと、あと今日発言者6さんが言われた清水の銀座のところだけれども、それが空洞化というか人が少ない、それは私、折戸の方に住んでいるんですけど、どうしてもやっぱり清水の駅まで行くにも、距離もそうなんですけど、交通機関のお金が結構かかります

ね、お金がね。だから途中のところでそういう大型店舗もありますし、なかなか清水の銀座のところまで行くというのが、地域の人も難しいと。

あと大学の関係で大学生をうまく使えばいいかなというふうな気もしますが、何となく大学の学生もうまく地域に溶け込んでないのではないかと。もうちょっと言うと、安い飲み屋さんが逆にあるのがマイナスになってできないのかなというふうな気もしますけれども、話せばまだほかにもあるのですが、今言った二つですね。教育旅行ということでのターゲットをもう少し広げるというのも当然考えていらっしゃるでしょうけれども、そういうことと、あと清水銀座の何というか地の利というか、交通機関の問題いろいろあると思うのですが、大学生の、私たちの責任にもなるかもわからないけど、そういうところを今日の話聞いて考えました。以上です。

#### <傍聴者3>

ドリプラの発言者5さんに提案ですけど、これは前から私たちおばさんたちが言っているんですけど、観覧車を見ているとお客さんがあんまり乗っていないのですよね。もう少し工夫をして、地域の人にサービスをする。例えば、最初にスタートした日には、イベントでいろいろ迷惑もかけているわけですね。人が多いとか車が多いとかね。だから例えば清水区の地域の人には開始の記念日には無料にしますよ。証明書を持っていったらいいとか、それからスタンプ制にして、お客さん、例えば私なんかもよそから人が来ると6人くらいで乗るとスタンプは6枚になりますね。大抵のスタンプって10回行くと1割プラスになるのですよね。そんなふうにしてサービスをするべきだと思う。

私たちの中ではドリプラのシンボルのようなあのきれいな観覧車が夜でも昼でも、常に3割以上乗っているようにする工夫が鈴与さんにはないね、お金があるからかしらとか言っています。もっとそういうことを地域と、それから記念日とか、何かもっと工夫があつてほしいなと感じています。

#### <発言者3>

教育旅行ということで、名前も「しずおか体験教育旅行」ということでやっておりますが、今16年たちまして、実際は子どもたちが何万人と、何十万人と来ているんですが、子どもたちが家へ帰って、この静岡の宣伝、清水の宣伝をよかったという形でしてくれ、その親が、あっそんないいところなら行ってみたいということで、来られて、実際に泊まっ

たり、日帰りかもしれませんが、いろんな旅館さんへ、学生が泊まるどころじゃなくて、今度は普通の旅館さんとかビジネスホテルさんへ泊まっているだろうと、僕は確信をしていますし、これからは子どもたちにやっていた体験を、今度は旅行会社さんがやっている。大人版の体験をやりたいのだということで、そういう紹介も今徐々に始まってきている。例えば由比漁協さんも来年新港になって大人の体験という海の上から富士山を撮ろうということで、漁船に乗って行う体験も始まっています。これからどんどん大人の体験旅行をまた進めていきたいと思いますので、頑張ります。

<発言者5>

観覧車の件、いろいろありがとうございます。まず地域のシンボルとなるようにというふうに力強く言っていただいたことに、まずはお礼申し上げます。ありがとうございます。

観覧車をつくりましてですね、やはり大勢の人、観光でも来てもらいたいという気持ちが最初には実はあったのですが、観覧車に乗って一番楽しむのは住んでいるまちが見える私たちが乗るからこそ楽しいのだろうなというのは感じました。日本平や清水のまちに愛着がない人が乗るといふ以上に、今言っていたのとおり、住んでいる私たち、毎日通っている道を上から見るのが楽しめるのは、清水市民、県民の私たちだなということを、今のお言葉をいただいて強く感じました。

お言葉をしっかり受けとめましたので、早速検討させていただきたいと思います。ありがとうございます。

<発言者6>

やっぱり学生が個室やワンルームで住む時代ではなくなってきたと思います。やっぱり地域の人たちと一緒に住んで、この地域で楽しい生活を送れたなというのは、仲間と一人暮らしのおばあちゃんのところでもってみんなでシェアハウスするとか、家賃も安くというふうな時代になってきていますので、そういうふうな仕組みをだんだんつくっていけば、地域と溶け込んでこの地が好きになって、この地にまた職を得るといふような学生も出てくるのではないかなと思います。ですから三保の大学があるから三保に住まなくてもいいのではないかと、三保の人は怒るけど、そう思います。

<傍聴者1、傍聴者2、傍聴者3に対する知事のコメント>

今フロアーの方から3人の方が御質問と意見を言われたわけですが、清水というところはやっぱり風通しがいいですね。あけすけにぱっと言うという、すごくいいと思います。もう腹に黒なく思ったことを言うということはとても大事で、これは県なんかでも、何となく隠すというふうに見える、情報を正確にすべて透明化することが大事で出さないというふうに見えるというのは非常にまずいと思っております、私は知事室のドアも開けっ放しです。そして携帯を私は持っていません。ファックスとか電話、あるいは手紙が来ても、知事室に来るものは全部オープンにしてよろしいと言っています。ラブレターでも。ラブレターはもう来ませんですから。もちろん前からですね。

ともかく静岡文化芸術大学の学長をしていたときもそうでしたけれども、全部オープンにするというふうにしており、ここの今言ったように、思ったことをきっちり言って、そして何か根に持ったりしないで、ともかく言われたことを正面から受けとめて、そして返すという、こうした気風は私たちも学びたいというふうに思った次第でございました。

それから今旅行の件について出ておりましたが、やはり域内における旅行というのは大事ですよ。今まで県外とか国外を言うのですが、しかし静岡ってやっぱり湖西から小山町、あるいは石廊崎まで、非常に多彩ですし、この間30万件、いや40万件近いキャンセルが出たんです、3月11日以降。伊豆だけで30万件、それ以外10万件で40万件的キャンセルですよ。だから店を閉じられたところもあるぐらいだったのですが、そのときに県庁の役人は別にクビ切られるわけではありませんので、このときは家族旅行、あるいはおじいちゃん、おばあちゃんがいらっしゃるなら、ともかく奥さん孝行も含めて旅行に行ってくださいと、泊まりに行ってくださいと。「何でこんなきついときに遊びに来ているのですか」と言われたら、「川勝に言われたからしょうがないから来ている」ということで、ともかくお金を使ってきてくれというふうに言ったぐらいですが、何も外の人をどう呼び込むかということだけでなく、域内で助け合うこともできます。ですから何かのときに今まで名前を知っているけれども行ったことがなかったようなところにちょっと行って泊まってみて、そして比較的近くですから、そんなに無理しなくて行き帰りができるというふうなことでもできるのではないかと。

そうした中で、先ほど県営住宅を商店街の中に上手に入れ込んだらどうかという発言者6さんからアイデアがありましたが、一方で大学生というのも、これはもう日本の大学というのは、もともとヨーロッパの大学を真似したものでしょう。もともと日本の大学は、お寺が大学でしたので、そこで勉強するという、高野山でも比叡山でも、皆そうです。そ

ここで生活していたわけです。生活空間だったわけです。

ところが今の大学は校舎がある、図書館があつて、事務棟があつて、運動場があつてということになっておりますけれども、そこで生活していたわけですから、大学がまちと隔絶しているのですね。これはやっぱり間違っているだろうと。ヨーロッパのまちを見ると、大学まちってあります。オックスフォードでもケンブリッジでもそうです。どこに住んでいるかという、店の上に住んでいますよ。

ですからすべての店とは言わなくても、たまたま今おっしゃった店じまいしているそこを上手に下宿なり、あるいは住まえるようにすれば、若者は何をするかという消費しませんが、あるいはアルバイトしますから、そうすると若者と店とが結果的に上手な循環に変えるということもできますね。そうすると、そこは若者がいるので華やぎます。そういうやり方もあるかなということを今感じた次第です。

それから傍聴者1さん、読み聞かせというのは小さいときからするのが大事で、我々は今新聞でも何でも皆黙読をしますけれども、かつては読書百遍意自ずから通ずと、必ず音読していたわけです。いつまでやっていたか、100年前までです。いや80年ほど前までですよ。皆声を出して読んでおったわけです。ところがあるときから目で読むというふうに、授業のときに先生が「はい、そこ読んでみなさい」というときだけ音読をする、そういう時代に知らぬうちになってしまったのですね。

だから読むということは、読んでいる本人も、お母さん、お父さん、あるいは大人が子どもとともに聞く方も音として聞くというのは、やっぱり目で見るとまた違います。リズムを聞く、声を覚える、そしてそこに感動がある、読む人の。だからやっぱり読み聞かせというのは本当に大事だと。だからいい本を読んで、ときには声を出して読む。それは和歌とか詩だとそういうふうにしやすいと思うのです。

皆さんのお手元の資料の「富士山百人一首」にあるのも、これは「語り継ぎ言い継ぎ行かむ」と、語れと、読めと言ってないですよ、「語り継ぎ言い継ぎ行かむ富士の高嶺を」と山部赤人が言ったわけです。その言った後に「田子の浦よりうち出でてみれば真白にぞ」というあの有名な短歌を読んでいるんです。

少しその前を言うと、「天地（あめつち）の 分かれし時ゆ 神（かむ）さびて 高く貴き 駿河なる 富士の高嶺を 天（あま）の原 振り放け見れば 渡る日の 影も隠らひ 照る月の 光も見えず 白雲も い行きはばかり 時じくそ 雪は降りける」そして「語り継ぎ 言い継ぎ行かむ 富士の高嶺は」と読んで、「田子の浦よりうち出でて」、こう言



っているのですよ。語り言えと。つまり言い聞かせ、語り聞かせですよ。こうしたことが今失われているので、それはとても大事だと思いました。

さて、あと二つありましたね。浜岡の原発は、あそこに使用中、あるいは使用中であっても止めたものがありますね。それから使用済みのものもあります。つまり燃料棒があるのですよ。あの燃料棒は冷やすことができなくなると、水が蒸発しますと、今度はもうそれが水素爆発になりかねないのですよ。だからあれ冷やし続けなくちゃいけない。それと同時に燃料棒は放射能を出し続けていますので、これを処理しなくちゃいけないのです。だから運転を止めても、あるいは廃炉にしても、燃料棒をどうするのですか、使用済みの。1万本近くあります。だからそれを処理するためには目を背けちゃいけない。それを処理する技術を持たないといけない。

そのためには、このプルトニウムという核爆弾の燃料になるものが日本には 200 トンあるのですが、これを処理する技術を持たないといけない。その技術は勉強しないとだめなのですよ、理科をしっかり。もちろん得意、不得意がありますから、そういう子どもが育って、日本からそういう本当の危険物質がなくなるというふうにするまでは、止めたから、はい安全というわけにいかないのですね。

今じゃ津波が来ると、今 18 メートルの防潮壁で、最初 700 億、今 1,000 億かけてやっている。あれはじゃ必要ないかという、使用済み核燃料がずっとございますから、よく定期点検と言うでしょう。定期点検というのは何か。点検しているのではありません。燃料棒を入れ替えているのです。それが定期点検です。13 カ月ごとに定期点検をしていると言っている。何しているかという、古い燃料棒を出して、燃料プールに入れて、新しい燃料棒を入れ込んで、これが定期点検の中身です。

だから定期点検をするということは、実は使用済み核燃料が増えるということと、また新しい燃料棒をそこに差し込んで、そして中長期的にはより多くの危険物が溜まるという、そういうことをしているのですね。ですから私はそれを乗り越えるための科学技術が必要だと思っているわけです。脱原発を言えばそれで終わりだと思っているのは甘いというのが私の考えです。

それから空港につきましては、ものすごいお金を注ぎ込みましたね。ところがあれはいろいろありますけれども、下に新幹線が通っているでしょう。これは 1964 年に日本がつくり上げた世界で最高の技術と言われたものです。鉄道の母国はイギリスでしょう。しかしイギリスが日本に脱帽したのは、全くほとんど事故も起こさなくて、当時 200 キロで、す

ごいということで脱帽した。日本に負けたというふうに思ったのが1960年のことです。その新幹線が真下を通っていて、その上に結果的に空港がありますけど、そうすると空港を降りたら新幹線、新幹線を降りたらすぐ空港に行けるといところがほかにありますか。ないのですよ。

そこに行かされると、こちらの方向に見ると富士山が見えるんです。そして飛行機が飛び立つ方向に富士山が見えるのですよ。そうするときれいですよ。富士山と飛行機が飛んでいる。人が写真を撮るために年間100万人来ているのです。今度展望台のちょうど真ん中のところに、やっぱり石雲院というお寺がございまして、その住職さんが数ヘクタールの土地をただ同然で譲ってくださった。そこに展望台をつくってもらって結構ですよ。円を軸にして、円というのは全体ですよ。そういうコンセプトを形にしたものだったら構わぬとおっしゃった。

そうすると富士山があつて飛行機が見えるでしょう。初日の出を見るのに最高です。初日の出を見るために皆羽田に行っているのですよ。7,000人、8,000人が。向こうは初日の出だけでしょう、こちらは富士山を背景にして見られますから、絶対負けないと。駐車場は2,000台ただです。ごめんなさいね。ちょっと違うこと言っちゃって、私割と楽天的で。

そうすると、きれいなところで、仮に夕焼けの日だと、そこに書いてありますけれども、「あかねさす夕日のかげは入りはてて空にのこれる富士のとほ山」明治天皇の御製がそこに載っています。富士山百人一首。後ろ見るでしょう、そうすると茶畑ですよ、牧之原の茶畑ですよ。そうすると、その向こうに日が沈むのですよ。西方浄土ですよ。もうあそこはね日本を代表する空港になると、して見せようと思っている。もう昔の人が失敗したかもしれぬけど、あんまり非難をしない。

ただし何であんな搭乗率保証みたいなものを結んだのかということについては、ちゃんと報告書を出させます。何であんなことをしたのか。県民に対してどういう経過でああいう卑屈な契約書を結ぶことにしたのかということについての経緯は、やっぱり今後そういうことがあってはいけないのです。その報告書を県民の前に披露したいと思います。

それで私の申し上げたいことは、あそこに誰が来るだろうと。あるいはもしあそこに駅ができればですよ、三島の人も、あるいは新富士の方も、あるいは浜松の方も、ずっと行きますよ。だからみんな新幹線の駅ができれば、そしてそういうところはここ以外にないので、VIPが来たときに、成田に来る、あるいは関空に来る、そうすると車列を並べてずっと都心に行かなくちゃいけない。それはどんなにスピードを出したって新幹線より遅

いですよ。それにいっぱい警戒する人がいなくちゃいけないです。しかし、皇室が乗られるときでも新幹線はほとんど警備がありません、乗っているときは。ですから富士山静岡空港は日本を代表する空港にできると。つくった人はそういう経緯のことを考えていたと思いませんけれども、そんなことがございます。

今のところは駅がございません。ただ、リニア新幹線のルートが決まりました。そうすると1時間に13本走っている新幹線のうち9本が「のぞみ」です。つまりうちを通過するだけだと。それが全部リニアにいきます。残り4本のうち2本が「こだま」と「ひかり」です。そうすると、その「ひかり」と「こだま」の本数が合計で13本までになるかどうかはわかりませんが、増えますので、国交省は新しい新駅をつくってくださいというそういう最終報告書を今年の春に出されたのです。つまりあそこに駅をつくってよろしいということなのです。

ですから、これまで使ったやつをもう一度ゼロにして、そこを使わないように廃港にするというか、空港をやめさせると、八ッ場ダムと同じになりますよ。結局ここまで注ぎ込んだやつをどうするのだという、結果的にまたやってしまう。だけど、お金を赤字のところにとんどん注ぎ込んでいくと、これは県民に負担がかかりますから、だから違う考えの中で、今申しましたような、これを日本一の空港にできると思っております。

日本一の空港だと思える人が増えると、そういうふうに使っていきますから、そのためのインフラ整備を差し当たっては県民のすべての人にとって良いようにつくるといいたいと思っています。静岡も20分ですから、乗ってしまえば。浜松からも20分です。東京でも1時間です。名古屋でも京都でも1時間ぐらいでさっさと行けるということになります。東海道五十三次の二十次余りがこちらにございましょう。

そして新東名もできる。新東名も162キロ一挙開通でしょう。あれもすごいお金がかかっているというふうに皆さん言われるかもしれない。ところが新東名で東名ですから東京と名古屋です。つまり本県の東側は神奈川県ですけれども、神奈川県に新東名できていますか。全くつくられていないですよ。じゃ愛知県はどうでしょう。名古屋港から豊田東までしかできていないのです。本県だけ西から東までさっさと一挙開通です。こんな162キロも一挙開通した歴史は日本の歴史上どこにもありません。

しかも本当ならば再来年の3月が締め切りだったのです。それを通常は先送りする。再来年の3月までにつくる、それが前倒しですよ。そんなところありません。今すべてが先送りでしょう。あの新東名だけが前倒しなのです。どうしてか。それは静岡文化芸術大学

が関係しているのですよ。ごひいきに。これはですね、10倍ですよ。読み聞かせした子どもたちはそこを受けたらいいです。そう簡単に入れませんが。8割ぐらいが県内の方です。そして8割ぐらいが女性です。その子どもたちを連れていったのです。私は工事現場に何度も足を運んでいます。

そして工事現場に足を運ぶと、ゼネコンだというふうに思っている人たちじゃなくて、実際に工事を行っている人、現場にいる人はごまかしがきかないのですよ。コンクリートをどうつくるか、トンネルをどうつくるか、橋をどうつくるか、のり面をどうつくるか、その植栽をどうするか、一つ一つ現実ですから、ごまかしがきかない。そしてその説明を聞くでしょう。そうすると感動します。感動することがたくさんありました。その話をすると、細かくはできませんが、それを余りにすばらしいから、私は学長時代に学生に現場を見せたいと言った。そしたら新東名の中日本高速道路株式会社の会長が、「どうぞ、どうぞ、バスも用意します」と。そうすると若い女の子が来て、工事現場の若い人が一生懸命説明すると、「ああ、ステキ、わあ」とかと言うじゃないですか。もうそうすると工事現場の人たちは翌日から張り切っちゃって、どんどん、どんどん仕事はかどり前倒しです。これで本県全部開通ですよ。

そして新東名というのは内側にあるでしょう。ということは、東日本は今内陸の方に、高台に向かえと言っている。だけどいろいろ不備があってすぐにはできない。うちは行こうと思えばそこに日本最高の品質を持った芸術的な新東名ができる。しかもこちらは、清水は今連絡道路もできているでしょう、東名と新東名と。

ですから自然破壊がある。しかし破壊するのも技術ですけれども、それをもとに戻すのも技術なのです。ですから破壊しっ放しではだめだと。残念ながらしかし人間は自然に手を加えないことには生きられないような存在です。それを通して人間が人口を増やしてきました。だからそれに対して自然をなるべく傷めないで、お互いに共生できるように、つまり手入れをします。

ちょうど由比のサクラエビでも、シラスでもそうですけれども、採り過ぎないでしょう。採り過ぎると結局自分の首を締めるのと同じですから。だから上手にそれを科学的に管理して、春の漁、秋の漁で上手に按配して、ずっとそのシラスの漁にしる、あるいはサクラエビの漁にしる、ずっと子々孫々まで引き継がれるようにしていると。同じように自然に手を加える、心を加えて、そしてそれを生かし、自分も生かされるというこの循環の関係をつくっていく以外に、道具を持ったときから人間はそういう宿命を持っているというふ

うに思っております。

ですから私は日本人として自然との調和をする技術というものをもう一度取り戻してやっていきたいと。今おっしゃったいろいろと生態系が乱れたと。しかし生態系をつくりかえること、つくり直すことも私たちにはできると思います。

きょうは生態系の恵みとしてのサクラエビとか、あるいはシラスとか、あるいはモツとか、そういう食のことを聞きました。それからそういうものを通して人間が育っていくという子育て、教育のことを聞きまして、それはしかし最終的にまちが絆をしっかりと持って、発展して、にぎわいを取り戻していくということのためであります。

つまり我々が幸せに暮らしていくためのものであって、それぞれの分野の方々から大変建設的な意見をいただいて、しかしそれに対してこういう見解、こういう点はどうかという、きょうは3人だけでしたけれども、非常にはっきりとした御意見を頂戴いたしまして、非常に実りのある2時間余りのこのセッションになったのではないかと。どうもありがとうございました。